

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年記念誌

2021～2025

2021～2025 Fukushima Medical Center for Children and Women, Fukushima Medical University



ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年記念誌

2021～2025

2021～2025 Fukushima Medical Center for Children and Women, Fukushima Medical University

目次

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年記念誌

2021～2025

2021～2025 Fukushima Medical Center for Children and Women, Fukushima Medical University

1. 巻頭言／寄稿

巻頭言	高橋 俊文	ふくしま子ども・女性医療支援センター センター長	4
寄 稿	内堀 雅雄	福島県知事	6
	竹之下 誠一	福島県立医科大学 理事長兼学長	7
	ふくしま子ども・女性医療支援センター スーパーバイザー		
	吉村 泰典	福島県立医科大学 副学長	9
	藤森 敬也	福島県立医科大学 医学部長兼産科婦人科学講座 主任教授	10
	郷 勇人	福島県立医科大学 小児科学講座 主任教授	11
	田中 秀明	福島県立医科大学附属病院 小児外科 教授	12
	渡部 真裕	福島県立医科大学附属病院 こども医療センター 副部長	13

2. ふくしま子ども・女性医療支援センターの概要

ふくしま子ども・女性医療支援センターとは	16
----------------------	----

3. ふくしま子ども・女性医療支援センターの沿革

4. ふくしま子ども・女性医療支援センター事業と2021年～2025年の実績

医師招へい事業	24
地域医療支援事業	28
人材育成支援事業（医師スキルアップ事業）	29
福島県立医大内医療支援事業	34
広報・啓発事業	37
その他の事業	47
センター事業の進捗を内堀知事に報告	54

5. センター教員	55
常勤教員	
高橋 俊文 教授／センター長（産婦人科）	56
横山 浩之 教授／副センター長（小児科）	57
西郡 秀和 教授（産婦人科）	58
神保 正利 特任教授（産婦人科）	59
小川 真里子 教授（産婦人科）	60
非常勤教員	
金森 豊 特任教授（小児外科）	61
黒田 優佳子 特任教授（産婦人科）	62
6. センター教員の研究業績	63
7. その他	101
ふくしま子ども・女性医療支援センター教員名簿	102
ふくしま子ども・女性医療支援センター要綱	104
ふくしま子ども・女性医療支援センターのシンボル・ロゴマーク	106
ふくしま子ども・女性医療支援センターホームページ	107

福島の子どもと女性の生涯にわたる健康サポートを目指して — センター開設10周年に寄せて —

「福島県の女性が安心して子どもを産み、育み、女性の生涯にわたる健康サポート」をスローガンに、ふくしま子ども・女性医療支援センター（以下センター）は2016年4月に福島県立医科大学（以下医大）に開設されました。

2025年4月、私たちは開設から10年という節目を迎えることとなりました。これを機に、これまでのセンターの取り組みと成果を改めて振り返り、本冊子としてまとめました。

福島県では東日本大震災以前から、産婦人科・小児科医師の不足という構造的課題を抱えていましたが、震災を契機にその状況はさらに深刻化しました。そうした中で、県は福島に暮らす女性と子どもたちの健康と安心を守るため、本センターの設立を決断しました。

センターの設立にあたり、多くの方々のご尽力がありました。内堀雅雄県知事、前医大理事長 故菊地臣一先生、センタースーパーバイザーで副学長の吉村泰典先生、前総括副学長 阿部正文先生、開設時事務局長を務められた井出孝則前副知事、そして現医大理事長の竹之下誠一先生には、折に触れて多大なるご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

2020年11月、初代センター長であった故 水沼英樹先生の後を継ぎ、私が第2代センター長を拝命しました。着任以来、まず大切にしたのは、これまでの歩みを記録し、未来への礎とすることでした。この10周年記念誌には、センター設立に関わってくださった方々や、日々共に活動を行っているスタッフの皆様からの貴重な寄稿も多数掲載されています。

今後もセンターは、時代の変化と医療の課題に柔軟に向き合いながら、「支える医療」から「つなぐ医療」へと進化を目指します。地域の未来を担う子どもと女性たちのために、私たちは歩みを止めることなく、次の10年へと力強く進んでいく所存です。

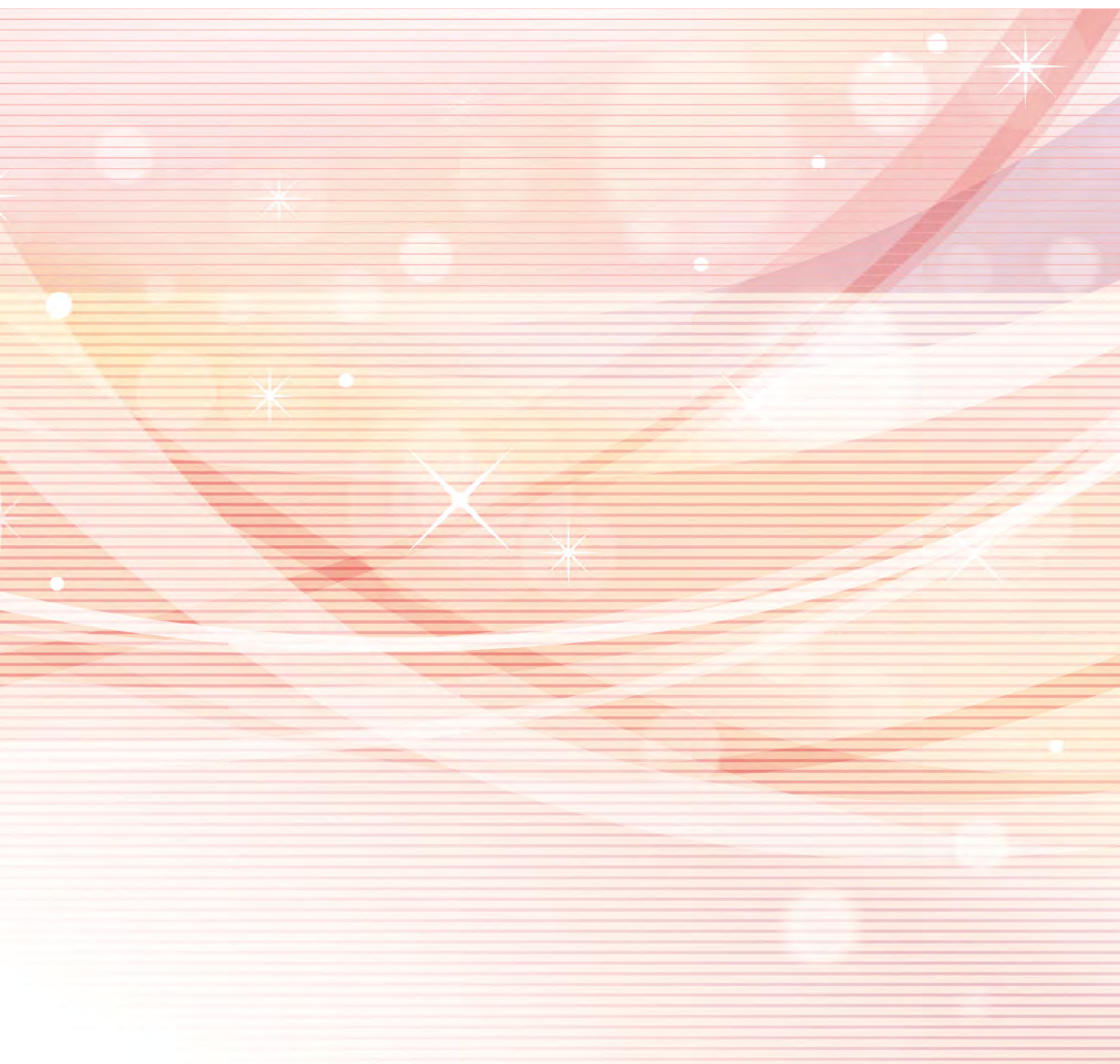
本冊子が、福島県の産婦人科・小児医療のさらなる充実、そして支援に携わる全ての皆様の励みとなることを願い、巻頭の言葉とさせていただきます。

ふくしま子ども・女性医療支援センター
センター長

高橋 俊文



寄稿



ふくしま子ども・女性医療支援センター 設立10周年に寄せて

福島県知事 内堀雅雄



この度は、ふくしま子ども・女性医療支援センターが開設10周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、日頃から本県の医療行政の推進に、多大なる御理解、御協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

東日本大震災及び原子力発電所事故から14年が経過し、この間、県民の皆様の懸命な御努力と県内外からの温かい御支援により、避難指示区域が大幅に縮小し、インフラ復旧も進むなど、復興に向けた動きが着実に進行しております。

その一方で、本県では震災及び原発事故を契機に医師数の減少や診療科の偏在が進行し、特に、産婦人科医師や小児科医師の確保は、大きな課題となっております。

貴センターには、「本県に住む女性が、安心して子どもを生み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことを目的として、平成28年の設立以来、本県の周産期・小児医療体制の充実に向けて様々な御尽力を賜りましたことを、重ねて厚く御礼申し上げます。

貴センターの設立以降10年の歩みの中で、全国から優れた医師を招へいし、福島県立医科大学や県内拠点病院において高度な医療を御提供いただくとともに、診療での技術指導等を通した若手医師の養成など、医療の面から本県の復興を前に進める大きな役割を果たしていただいております。

また、産婦人科医療における不妊治療や女性特有の疾患に関する診療技術の発展、助産師外来の設立や普及、小児科医療における県内初の小児集中治療室(PICU)の開設や小児外科医の診療体制強化等の様々な事業を通して、周産期・小児医療提供体制の充実が図られております。

近年では、女性医師の割合が全国的に増加傾向にあり、本県においても、平成24年に14パーセントだったものが、令和4年には17パーセントにまで増加しており、女性医師が働き続けられる環境を整備することは、男性も含めた医師全体の労働環境の向上と同様に、質の高い医療を提供する上で極めて重要であります。

県としましても、福島県立医科大学を始め、関係機関と協力しながら、産婦人科医師や小児科医師の更なる養成や周産期医療提供体制の充実等に加えて、県内に住む女性がその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野で活躍できる環境づくりに一層取り組んでまいりますので、皆様には引き続き、御理解、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴センターの今後の活動が実り多きものとなりますよう、皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、挨拶といたします。

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年を迎えて

福島県立医科大学
理事長兼学長

竹之下 誠一



「ふくしま子ども・女性医療支援センター」は、東日本大震災を契機に、周産期医療に関連する産婦人科医や小児科医の不足が悪化したことを受け、県によって県立医科大学内に開設され、今年で10周年を迎えることができました。この度「ふくしま子ども・女性医療支援センター10周年記念誌」を発刊するにあたり、記念集への寄稿の機会をいただきましたことを大変光栄に思っております。これまでセンター運営に多大なご支援、ご協力をいただいた皆様に、感謝の気持ちとこれからのますますのご発展を祈る気持ちをお伝えできればと思います。筆を取らせていただきました。

「ふくしま子ども・女性医療支援センター」は設立以来、地域医療の充実と専門医の育成など、多くの成果を上げてきました。具体的には、本学産科婦人科学講座、小児科学講座、附属病院小児外科と連携・協力して行った、県外からの専門医の招へいや若手医師のスキルアップ、専門診療の充実、県内医療機関との連携強化などが挙げられるでしょう。また、婦人科悪性腫瘍の低侵襲手術の導入支援や小児集中治療室（PICU）の立ち上げへの参画など、先進的医療の導入を積極的に推進してきたのも当センターの成果です。そして現段階で当センターの陣容は、非常勤を含めれば総勢二十名の医師を擁するまでになり、そこには県外から招へいの常勤医師九名も含まれます。これらの医師は全て、産婦人科、小児科、小児外科のエキスパートであり、福島県内の子どもと女性の医療を支える次世代の医師の育成に貢献しております。

思い起こせば10年前の2016（平成28）年、当時、日本産婦人科学会理事長の吉村先生のお計らいで、東日本大震災復興のシンボルとして設立された「ふくしま子ども・女性医療支援センター」の初代センター長に、弘前大学を退官されたばかりの水沼英樹先生を招へいし、ご就任いただきました。そして、思春期から妊娠、出産、子育て、更年期、老年期と女性の一生を切れ目なくサポートできる専門家を揃えた、日本でも他に類のないセンターを構築していただきました。さらに地域の医療支援はもとより、学生、研修医への教育指導、人材育成に力を入れ、福島で働く小児科、産婦人科の医師を増やすことにも尽力されました。センター設立からわずか5年のうちに、震災後の福島の子どもの医療の礎を築いていただいた水沼先生は、まさに福島県の恩人であります。

水沼先生と私は、1969（昭和44）年、群馬大学医学部に入学した同期です。学生運動によって東京大学の入学試験が中止され、多くの受験生が志望大学を再検討、変更した年です。水沼先生と席を並べるようになったのも、そのような時代の流れと偶然の中でのことでした。水沼先生は当時も変わらず、穏やかな笑顔と優しい口調のさわやかな青年で、鹿児島から出てきた田舎者の私とは対照的な人物でした。しかし、早生まれの数少ない現役で、かつ体育会系出身者という不思議と通じあう空気を持っており、すぐに意気投合することができまし

た。水沼先生は、学生時代も剣道に打ち込み、鋭く凛とした姿勢は、普段の柔和な表情からは想像できない一面でした。意見を聞き、沈思黙考し、やると決めたら間髪入れず行動に移す彼の仕事のスタイルは、剣道の「静から動へ一瞬で動くさま」にそっくりでした。決して強さを表に出さず、優しい笑顔で、誰とも分け隔てなく気さくに会話をし、他人の意見を丁寧に聞いてくださる姿勢。正確な判断力と素早い行動力はまさに真の武道家のお姿でした。

センター開設から10年を経た現在、初代センター長の水沼英樹先生の薫陶を受けた2代目センター長高橋俊文先生をはじめ、センター開設当初より水沼先生を支えてきた先生方、さらに新たに加わった所属教員の皆さんが、福島の子どもと女性の医療を支える基盤をがっちりと固めておられることは心強い限りです。そして何にも代えがたい喜びは、水沼先生が育てられた愛弟子たちが女性医学のエキスパートとして福島に戻ってこられ、福島県内の女性医療の担い手を育ててくれる時代へと進化していることであります。

東日本大震災から15年を経た今、本学は、蓄積してきた研究成果や知見を積極的に社会へ還元する新たなフェーズに入りました。これからも、「医療と健康の面から復興を支える」という使命のもと、「誰もが住みやすく、子どもを安心して育てられ、健康な一生を過ごすことができる福島県」の実現、そして、「地域に根ざした 信頼される医療」の実現に向け、邁進されるセンターの皆様のさらなるご活躍とご発展を祈念し、筆をおかせていただきます。

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年を顧みて

福島県立医科大学副学長
ふくしま子ども・女性医療支援センター スーパーバイザー

吉村 泰典



2011年3月11日の東日本大震災と津波、そして原発事故という三重苦に直面した福島県は、住民にのみならず医師の県外流出による医師数減少という深刻な局面に陥りました。センター開設の端緒は、「福島の復興の鍵は、女性が生涯健やかに輝き続ける社会の実現にある」との内堀雅雄知事からの強いメッセージでした。爾来、当センターは開設10周年を迎えることになりました。

産婦人科や小児科領域のエキスパートが福島県下の医療支援を行うとともに、女性と子どもたちの未来を守るべき医師を育成するという全国でも稀有な取り組みは、初代センター長であった故水沼英樹先生や医大理事長の竹之下誠一先生らの懇篤なるご指導ならびに至大なるご支援のもと、開設当初の目的は達成されてきたと思います。生殖医療センター、総合周産期センター、こども医療センターならびに小児外科と緊密な連携をもつ当センターは、思春期から性成熟期、更年期から老年期に至る全ライフサイクルにおける女性と子どもの健康力の維持に貢献する役割を担っております。センターに所属する医師も増え県下の医療も拡大され大学と詳密に連携して進める本事業は、わが国の災害後の医療支援のモデルケースにもなっております。現センター長である高橋俊文先生には、今後の福島県下の医療や当センターの様態について、総合的・俯瞰的な見地からの新たな方向性を言挙げしていただきたいと思います。

地方こそ成長の主役であるとする地方創生のゴールは、未来を創ることにあります。国ならびに県行政の支援や尽力により、福島は今や復興の歩みを着実に進めています。しかし、少子高齢化に直面する福島県にあっては、妊娠・出産・子育ての不安の解消や子育てしながら就労しやすい環境の整備がより一層必要となります。未来を築いていく女性と子どもたちのための当センターの役割は、ますます枢密なものとなってくると思います。

センター設立、その後の10年間、県ならびに福島県立医科大学の皆様方には筆舌に尽しがたいお世話になりました。センター設立の決断を下さった内堀雅雄知事をはじめ諸兄姉には改めて深甚なる謝意を申し上げるとともに、向後も温かく見守っていただきたいと思います。新たな10年に向けて当センターは、女性が健康で心健やかに産み、安心して子育てができるような社会、若い世代が子どもを作り育てたいと思う社会の形成を志向してまいります。

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年に寄せて

福島県立医科大学 医学部長
産科婦人科学講座 主任教授

藤森 敬也



ふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年、心よりお祝い申し上げます。

この10年間、福島の子どもの健康を支えるために、センターが果たしてこられた役割は極めて大きく、その意義は年を重ねるごとに深まっております。とりわけ、周産期・小児・女性医療の三位一体の支援体制の構築は、全国的にも稀有な取り組みであり、福島県の医療資源が厳しい状況にある中で、センターの存在はとても重要な役割を果たしてきました。

あらためて思い起こしますと、センター構想の発端は東日本大震災後、県内の周産期・小児・産婦人科医療の再生と強化を図るものであり、2016年に水沼英樹先生を初代センター長として迎えたことが、その礎でした。水沼先生の誠実で温厚なお人柄と、教育・研究への真摯な情熱は、今も多くの医師・助産師・職員の中に息づいています。先生の早すぎご逝去を悼みつつ、そのご遺志を継いで歩まれてきたセンターの皆様に、深い敬意と感謝を申し上げます。

現在は、高橋俊文センター長のもと、臨床・教育・研究の各分野で新たな展開が見られ、私ども産科婦人科学講座とも連携しながら、生殖医療・内視鏡手術・妊産婦メンタルヘルスなど、私の専門外領域においても多大なご助力をいただいております。また、県内各地の基幹病院で活躍されている先生方の存在も、福島全体の医療の底上げにつながっております。

さらに、次世代の医療人育成という点でも、センターの果たす役割は極めて重要です。医学部生や研修医がセンターの活動に触れ、多職種連携の実践的な学びを得ることは、福島県全体の医療人材の質と数の両面において、大きな波及効果をもたらすものと確信しております。医師をはじめとする医療従事者の育成は、地域医療を持続可能にする鍵であり、その実践の場としてのセンターの存在価値は計り知れません。

福島県立医科大学が地域医療の中核を担う中、ふくしま子ども・女性医療支援センターが果たすべき使命は、今後さらに重要性を増していくと思われます。次の10年に向けて、これまで培われた信頼と実績を礎に、さらなる発展を遂げられることを心から期待しております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年に寄せて

福島県立医科大学 小児科学講座
主任教授

郷 勇 人



ふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年を迎えたこと、誠におめでとうございます。

東日本大震災からの復興を進める中、福島の女性が安心して子どもを産み、育て、健康な一生を過ごすための医療支援を行うという目的で設立され、センター長はじめスタッフの皆様方がこれまで10年間に渡り、子どもと女性の医療に関わる医師のリクルートや人材育成や医師の福島県への定着など、様々な取り組みを進めてこられました。

小児科の分野では、2017年に、福島県立医科大学附属病院に小児集中治療室(PICU)が開設されました。ふくしま子ども・女性医療支援センターの特任教授として清水直樹先生(聖マリアンナ医科大学小児科学講座 教授)が就任され、小児科学講座のスタッフをご指導していただいたお陰で、現在はPICUを専攻する当講座の小児科医が増え、運営も軌道に乗っており、県内全域から集中治療を要する子どもが当院のPICUに搬送され、小児集中治療を専門とする熟練した医師の治療を受けることができるようになりました。

また、当センター教授の横山浩之先生は、この10年間で福島県での子どもの発達障害診療の裾野を広げてくださり、現在は、福島県内の各地域で、発達障害診療が可能となりました。このことは、発達障害が増えてきている中、各医療圏で専門の診療が受けられる、県民がより安心して医療を受けられる体制が整ってきたことを意味します。

この10年間で、エキスパートの指導により小児領域では、PICUや発達障害などの新たな専門領域が根付きました。

一方で、2020年から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が始まり、現在も流行と沈静化を繰り返しています。このような流行の中でも、当センターが歩みを続けてこられたのは、センター長をはじめ、県内の産婦人科医、小児科医、小児外科医の皆様が協力してきたからだと思います。

産婦人科医、小児科医、小児外科医が集まるふくしま子ども・女性医療支援センターは成育医療を担う大事なセンターです。子どもは、未来を担う財産であり、そして子どもを産む女性にとって、安心して子どもを産み、育てる環境をより良くしていくために、福島県内の小児科医のさらなる人材育成に向け尽力していきたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

「福島だからこそできること」を求めて —ふくしま子ども・女性医療支援センターと 共に築く小児外科の未来—

福島県立医科大学附属病院
小児外科 教授

田中 秀明



この度は、ふくしま子ども・女性医療支援センターが開設10周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

私が当院の小児外科に赴任した2017年以来、センターのお力添えを賜りながら進めてきた4つの取り組みについて、ご報告いたします。この8年間は、センターとの連携によって「福島のこの場所だからこそできること」が数多くあることを実感する日々でした。

1. 小児外科医の招聘と人材育成

まず、当科の人材不足という喫緊の課題解決のため、センターのご高配により、2020年には筑波大学から南洋輔先生(特任助教)を、2022年には金森豊先生(特任教授、非常勤)を招聘することができました。

南は、当科の診療体制を支えてくれた後、医局としても当科へ正式に移籍してくれました。現在は大学院生として国立成育医療研究センターにて研究生活に入っています。金森先生には、学生や研修医への講義、手術指導、患者様の治療方針に関する相談など、多岐にわたりご尽力いただいています。金森先生のご提案で始まった「ふくしま周産期・小児セミナー」は、毎回様々な分野のトップランナーにご講演をいただき、盛況のうちに先日第6回目が開催されました。センターのご支援により、本県の小児医療の発展に大きく寄与する二人を招聘できたことは、当科にとって大きな財産となっています。

2. 地域医療との連携

私たちは県内の小児外科症例を当院へ集約しつつ、地域医療との連携強化にも努めています。太田西ノ内病院小児外科を当科の関連施設と位置づけ、上述の南も同院で2年間勤務し、地域の小児外科診療体制を確固たるものにしました。今後も医局員の出向を継続していく方針です。

3. 学生・研修医へのリクルート活動

センター主催のハンズオンセミナーには当科も2020年より参加し、学生に小児外科の魅力を伝え、強い興味を持たせることに成功しています。上述のセミナーへの学生参加者も年々増加しており、周産期医療全体への関心が高まっているのを肌で感じています。

4. PICU (小児集中治療室) との連携による新たな研修プログラム

当院PICUの設立には、本学、県、そしてセンターの諸先輩方の多大なるご尽力があったと伺っており、小児外科医として大きな手術後や肝移植患者様の周術期管理では大変お世話になっております。

当科では、若手医師が1～2か月間PICUをローテーションする研修プログラムを始めており、3名が修了しました。小児重症患者の呼吸・循環管理や各種手技、多職種連携など多くの貴重な経験を積ませていただいております。この取り組みは北米では一般的ですが、日本ではまだほとんど例がない画期的なプログラムです。今後は小児外科の専門性をPICUに還元していくことも目標としております。

この8年間で振り返り、センターとの協働によって得られた経験と知見を、さらに広げていくことが私の次の目標です。

末筆ながら、ふくしま子ども・女性医療支援センターの一層のご発展と、皆様方の今後ますますのご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

高度医療と人材育成の拠点として ～大学医療機関としてのPICUの果たす役割～

福島県立医科大学附属病院
こども医療センター 副部長

渡部 真裕



当院の小児集中治療室（PICU）は、2017年4月に運用を開始し、2018年6月からは6床体制となって、県内の重篤な小児患者を24時間体制で受け入れてまいりました。開設から現在に至る7年間で、延べ1,300例以上の患者が入室し、重症急性疾患や術後管理に加え、大学病院ならではの高度先進医療や希少・難治性疾患の急性増悪にも対応する体制を整えてきました。

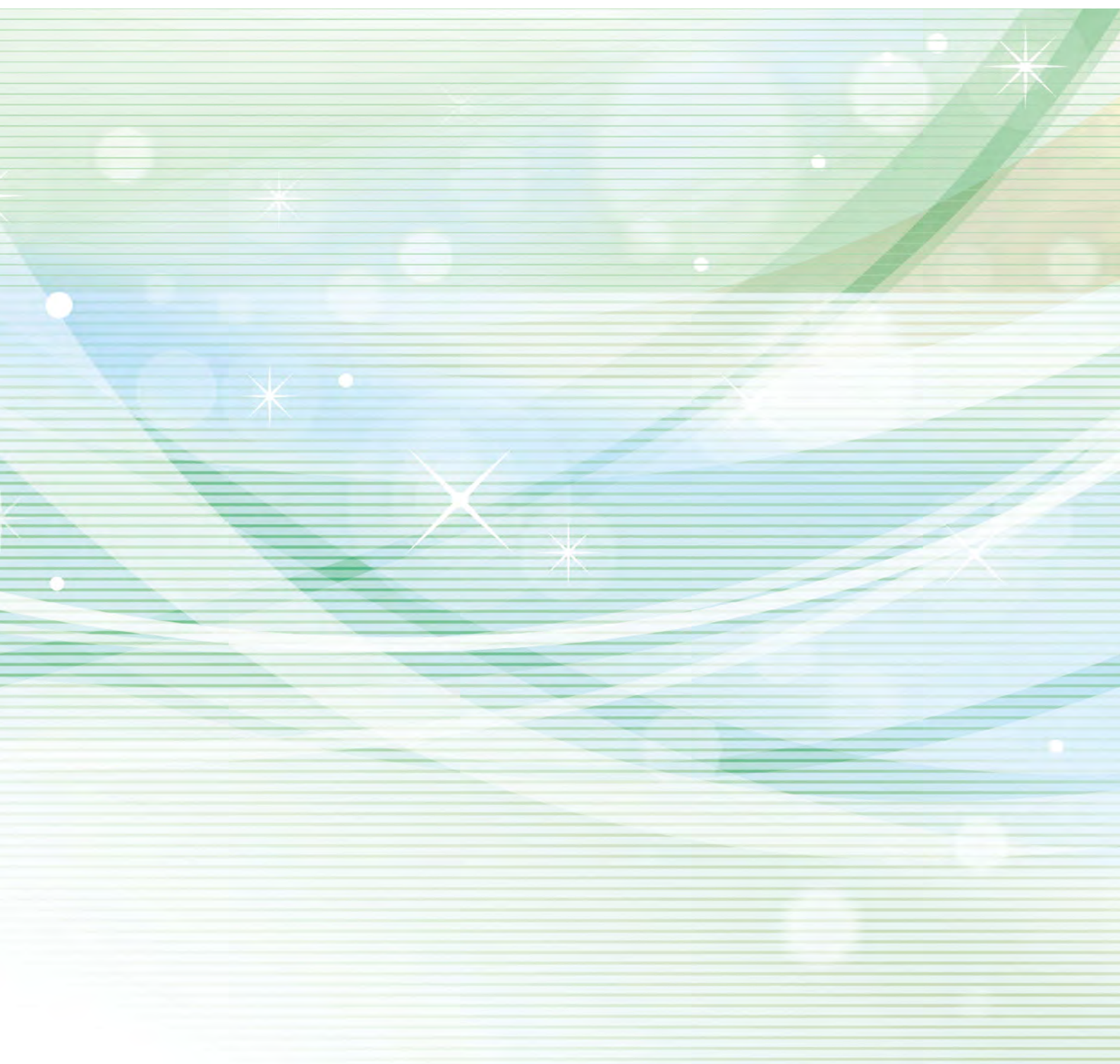
また、県内唯一の小児中核病院として、地域における小児救急・集中治療の集約化と支援の役割も担ってきました。重症患者に対する専門的な集中治療の提供にとどまらず、多職種によるチーム医療、医療安全、終末期医療における倫理的課題など、幅広い分野での実践が求められる環境にあります。こうした取り組みにより、県内における小児の救命率向上にも貢献してきました。

一方で、教育の場としてのPICUの価値も非常に高いと考えています。PICUでは、病態生理に基づいたアセスメント力、他診療科との連携、リーダーシップ、そしてチーム医療の実践的な訓練などを通して、小児科医に必要な知識と経験を広く身につけることが可能です。当科では、小児科専攻医にPICU研修を必修化しており、小児救急・集中治療に精通した後進の育成にも力を注いでいます。これは県内の医療水準を高めるのみならず、全国的にも注目される取り組みの一つです。

現在、PICUの整備は全国的に都市部へと偏在しており、地方における搬送体制や専門人材の不足は依然として大きな課題です。集中治療専門医の育成にとどまらず、PICUの理念や役割を幅広い医師に共有し、その理解を深めていくことが、小児医療全体の底上げにつながると考えています。

これからも、子どもたちに安全かつ質の高い救急・集中治療を提供し続けるとともに、次世代の小児科医の育成にも全力で取り組み、県内外の小児医療の発展に貢献してまいります。

ふくしま子ども・女性医療支援センターの概要



■ ふくしま子ども・女性医療支援センターとは

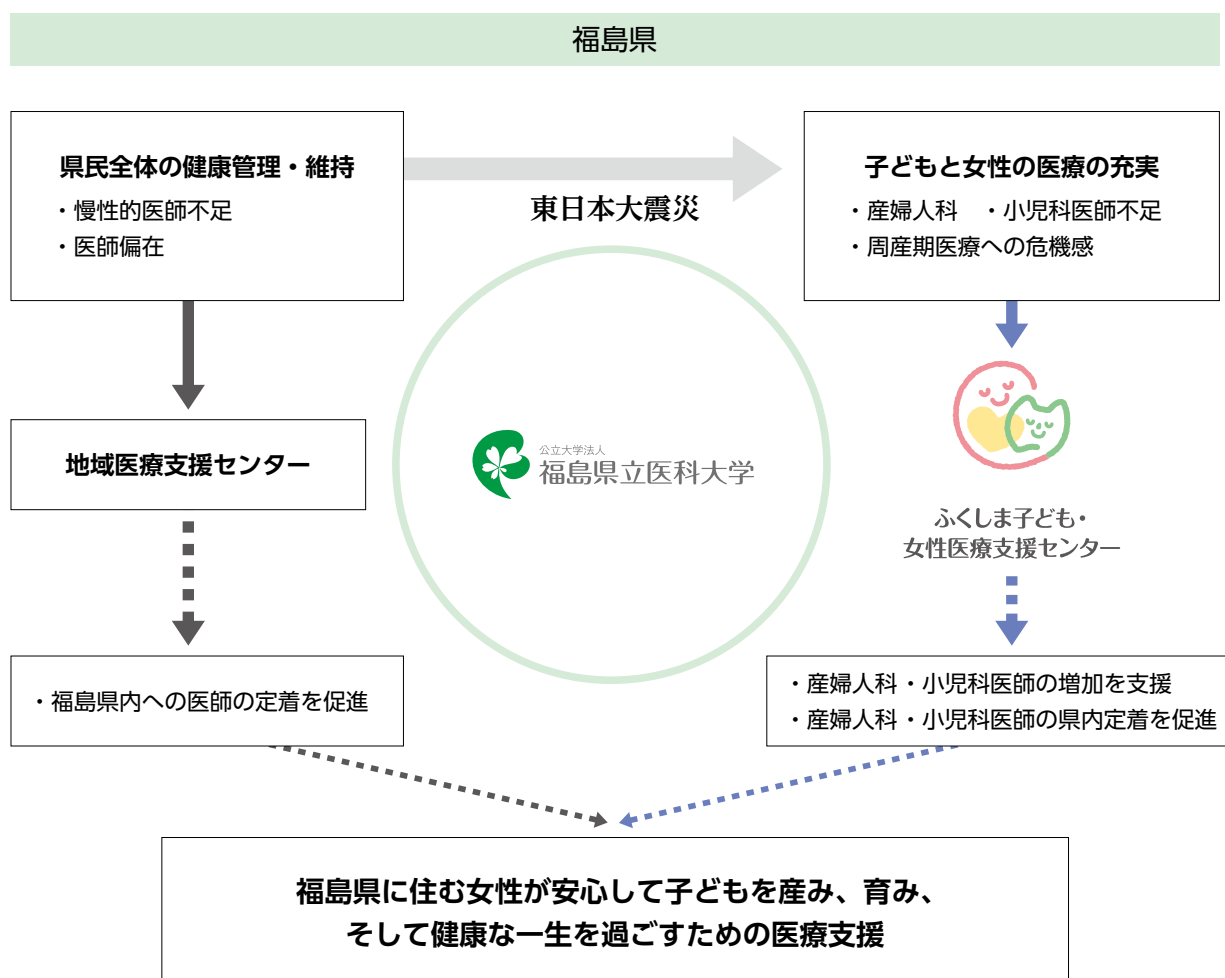
<ふくしま子ども・女性医療支援センター設立の背景と目的>

福島県は、慢性的な医師不足や医師の偏在を解消するために、福島県立医科大学内に福島県地域医療支援センターを設置し、県内への医師定着を促進する事業を展開してまいりました。

特に周産期医療に関わる、産婦人科、小児科医師が不足していましたが、2011年の東日本大震災をきっかけに状況はさらに悪化しました。このような状況を打破するため、県の委託を受け、2016年4月、福島県立医科大学に「ふくしま子ども・女性医療支援センター」が開設されました。

ふくしま子ども・女性医療支援センターは、「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことを目的に設立された、全国的にも例をみない only one の施設です。

小児科医、産婦人科医のエキスパートが県内医療機関の小児科・産婦人科の医療支援を行うとともに、妊娠の前段階から妊娠、出産、子どもの成長、女性の生涯にわたる健康を一貫して支え、子どもと女性の医療に携わる医師の養成を支援することを目標としています。



<ふくしま子ども・女性医療支援センターの特徴>

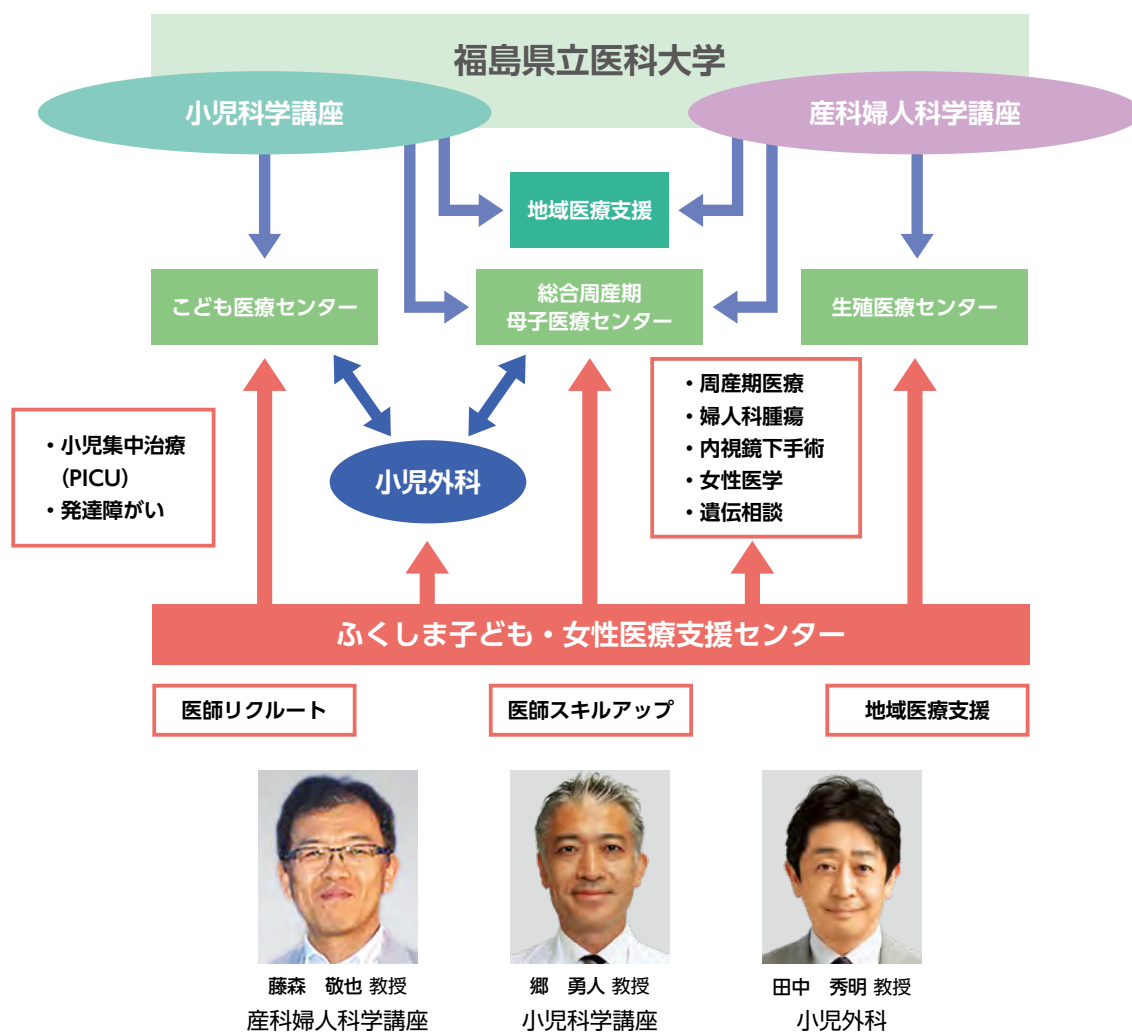
ふくしま子ども・女性医療支援センターは、“女性と子どもの健康に関する医療”を充実させるセンターです。当センターでは、妊娠前からの女性の健康（プレコンセプションケア）、不妊症治療などを行う生殖医療、妊娠・出産を取り扱う周産期医療、未熟児や疾患を持った子どもの治療とケア、子どもの発達段階での異常、さらには、女性のライフスタイルの変化（エイジング）に伴う諸問題など、これらのすべての医療に関わる医師の支援を行います。

<ふくしま子ども・女性医療支援センターの役割>

ふくしま子ども・女性医療支援センターは、主に以下の3つの役割を担っています。

1. 医師招へい：福島県内への産婦人科、小児科医師のリクルート。
2. 地域医療支援：県内の産婦人科、小児科診療の支援。
3. 人材育成支援：県内の産婦人科、小児科医師のスキルアップ。

この3つの役割を達成するために、センター教員は、産科婦人科学講座、小児科学講座、小児外科と連携・協力しながら、教員各々の専門性を活かして活動を行います。



小児科医・産婦人科医の招へいと定着とともに、小児科、小児外科、産婦人科が連携し、女性の一生を通じた診療体系を構築します。

医師リクルート

全国から小児科、小児外科、産婦人科のエキスパートをリクルートします。

地域医療支援

県内拠点病院への医師派遣を通じて診療、支援を行うことで、県内の子ども・女性医療水準の向上を図ります。

育児環境の整備

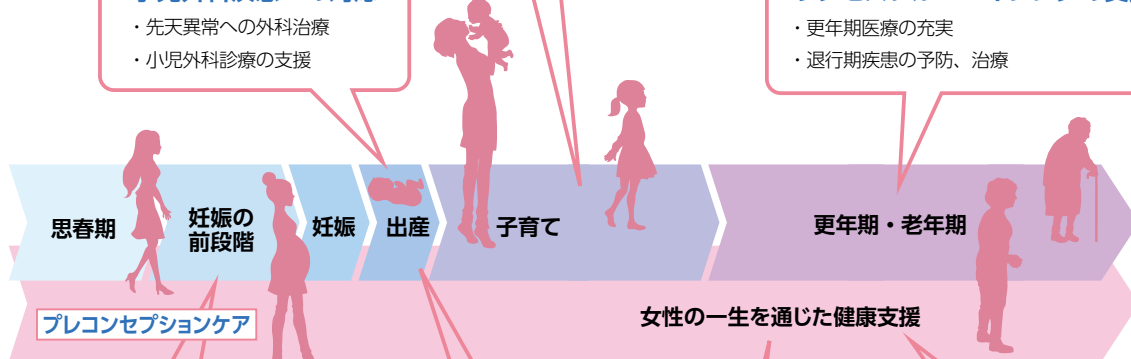
- ・発達障がい児の早期発見、保護者や支援者への支援
- ・PICUにおける高度診療

小児外科疾患への対応

- ・先天異常への外科治療
- ・小児外科診療の支援

サクセスフル・エイジングの支援

- ・更年期医療の充実
- ・退行期疾患の予防、治療



遺伝医療と生殖医療の充実

- ・不妊症の診断、治療
- ・がん、生殖医療体制の整備
- ・臨床遺伝専門医、指導医などの育成支援

分娩環境と産科救急体制の整備

- ・母子医療センター等への医療支援
- ・MFICU、NICUの体制強化

女性に特有な疾患の予防と治療

- ・女性のヘルスケア
- ・がん予防、高度診療

内視鏡下手術の普及

- ・技術認定医の育成支援
- ・腹腔鏡下悪性腫瘍手術の技術指導

医師スキルアップ支援（人材育成）

小児科・産婦人科と連携し、子どもと女性医療に携わる医師のスキルアップを支援します。

卒前教育・学内医療支援

県立医大の学生教育をサポートします。学内の小児科、小児外科、産婦人科の診療支援を行います。

ふくしま子ども・女性医療支援センターの沿革



ふくしま子ども・女性医療支援センターの沿革

年	月	内 容
2015年	1月	福島県は、福島県立医科大学内に産婦人科医の人材養成などを図るための「周産期医療人材養成支援センター」を整備する予算案を作成
	6月	福島県は、福島県立医科大学内に新設する「県周産期医療支援センター（仮称）」の整備概要を公表
	7月	福島県周産期医療支援センター（仮称）開設準備のため、吉村 泰典内閣官房参与（当時）を理事長付特命教授兼副学長（業務担当）に、水沼 英樹弘前大学産科婦人科学講座教授（当時）を特任教授に任命 東京都小児総合医療センターとPICU医師の派遣協議を開始
	8月	センター準備室設置 センター名称を「ふくしま子ども・女性医療支援センター」と内定
	9月	水沼特任教授、ふくしま子ども・女性医療支援センター準備室長就任 内堀 雅雄知事、ふくしま子ども・女性医療支援センターの概要を議会で発表
	10月	ふくしま子ども・女性医療支援センターに名称が正式決定 ふくしま子ども・女性医療支援センター準備室設立記者会見 内堀知事を表敬訪問
	11月	ふくしま子ども・女性医療支援センター準備室開設 吉村副学長、ふくしま子ども・女性医療支援センタースーパーバイザーに就任 内堀知事を表敬訪問、センターの体制や事業概要について報告 ふくしま子ども・女性医療支援センター設立記者会見
	12月	非常勤指導医3名が就任し、PICUの指導を開始
2016年	1月	センター教員（産婦人科医師、小児科医師各1名）の確保が固まる 4月からの人員体制確定（常勤医師3名、非常勤医師5名）
	3月	内堀知事を表敬訪問、センターの体制と事業概要を説明 ふくしま子ども・女性医療支援センター設立記者会見
	4月	ふくしま子ども・女性医療支援センター設立開所式（4月4日） スーパーバイザー：吉村 泰典 センター長（特命教授）：水沼 英樹（常勤） 小 児 科：教授 横山 浩之（常勤） 産婦人科：教授 高橋 俊文（常勤）、特任教授 福島 明宗（非常勤） 小 児 科：特任教授 清水 直樹（非常勤）、特任講師 新津 健裕（非常勤）、 （PICU） 特任講師 齊藤 修（非常勤） ふくしま子ども・女性医療支援センター開設（4月4日）
2022年	2月	ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設から5年の歩み2016～2020 発刊
2025年	9月	ふくしま子ども・女性医療支援センターの移転 きぼう棟3階から先端臨床研究センター棟3階へ



ふくしま子ども・女性医療支援センター開設（2016年4月4日）



ふくしま子ども・女性医療支援センター開所式（2016年4月4日）



ふくしま子ども・女性医療支援センター開設祝賀会（2016年6月9日）



ふくしま子ども・女性医療支援センター開設から5年の歩み2016～2020発刊（2020年2月）

ふくしま子ども・女性医療支援センター事業と2021年~2025年の実績



医師招へい事業

1. 事業内容

1) センターへの医師リクルート事業および新規産婦人科・小児科医師リクルート支援事業

全国から産婦人科、小児科（PICU、小児外科を含む）のエキスパートをセンターにリクルートおよび県内の産婦人科、小児科専門医コースへのリクルートを支援しています。

2) 県外産婦人科専攻医の福島県内での研修支援事業

福島県外の産婦人科医療機関と連携した若手医師の育成と県内医療支援を目的に、昭和大学（2025年から昭和医科大学と名称変更）産婦人科の専攻医の県内病院（白河厚生総合病院と竹田総合病院）での研修を2019年より支援しています（表3）。

2.2021年～2025年の実績

1) エキスパート医師のリクルート事業

ふくしま子ども・女性医療支援センターへの医師のリクルート状況の推移

年度	産婦人科	小児科	小児外科	医師数*
2021	8（常勤3、非常勤5）	5（常勤1、非常勤4）	1（常勤）	14（5）**
2022	9（常勤3、非常勤6）	5（常勤1、非常勤4）	2（常勤1、非常勤1）	16（5）
2023	10（常勤3、非常勤7）	5（常勤1、非常勤4）	2（非常勤）	17（4）
2024	10（常勤4、非常勤6）	5（常勤1、非常勤4）	2（非常勤）	17（5）
2025	10（常勤4、非常勤6）	5（常勤1、非常勤4）	2（非常勤）	17（5）

*医師数は4月1日時点の数を記載、**括弧内は常勤

2) 新規産婦人科・小児科医師リクルート支援事業

福島県立医科大学産科婦人科・小児科学講座への入局者数の推移

年度	産科婦人科入局者数	小児科入局者数
2021	3	2
2022	5	7
2023	3	3
2024	5	5
2025	6	6

2) 県外産婦人科専攻医の福島県内での研修支援事業

昭和医科大学専攻医の福島県内病院での研修支援事業

年度	専攻医数
2021	2
2022	2
2023	2
2024	1

貴重な体験や福島ならではの 経験に日々成長

こんにちは。昭和大学医学部産婦人科学講座2020年度入局の小倉勇輝です。専攻医2年目の2021年10月より専攻医地域研修として会津若松市にある竹田総合病院に勤務させていただいています。他県の医局からの派遣という立場ではありますが、福島県立医科大の先生方から同じ医局員のように日々優しく丁寧に指導いただいています。

当院は福島県の西側の会津地域唯一の周産期センターということもあり、通院に1時間かかるような患者さんもいらっしゃいます。こういった点では私が今まで勤務してきた関東の病院とは異なるところかと思っています。婦人科外来や産科外来どちらも担当させていただいたり、あまり馴染みのなかった腔式子宮全摘術などの手術の見学などさせていただいたり大変勉強になります。婦人科の悪性腫瘍の症例も主治医のように対応させていただくなど、貴重な機会をいただいています。

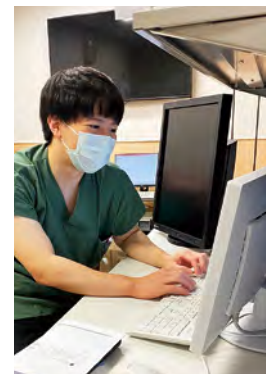
病院スタッフや患者さんも含め、会津の方はおらかな方が多いの

で、とても職場環境としても恵まれています。

また、会津という地域は福島県の中でも豪雪地帯なので、冬は今まで経験したことのない積雪量に少し戸惑いましたが、日本酒や馬刺しなど美味しいご飯も多く、ウィンタースポーツなどの仕事後の楽しみも充実しています。そんな福島県、会津での研修に興味を持たれた方はぜひ一度見学などにいらしてください。

小倉 勇輝

専攻医2年目



2021年10月より
竹田総合病院で研修

産婦人科4領域全てを経験できます

こんにちは。私は2021年10月より白河市にある白河厚生総合病院の産婦人科に勤務させていただいています。下郷町に母の実家があり、福島県には毎年のように訪れていたのですが、白河厚生総合病院で働くことが決まった時は赴任するのがとても楽しみでした。赴任当時は専攻医1年目で不安なことがたくさんありましたが、病院のスタッフの方々がとても親切で働きやすく、頼れる先生方の大きなサポートもあり仕事も少しずつこなせるようになっていきました。

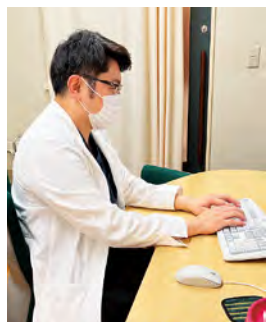
当院は福島県の県南の産婦人科医療を担う病院であり、周産期医学・生殖内分泌学・婦人科腫瘍学・女性医学の4本柱全ての分野を学ぶことができます。私は白河に赴任して初めて産婦人科医として外来を持たせていただきました。産科外来の妊婦健診でお母さんに胎児の状態を説明したり、婦人科外来で初診の方の手術計画から術後のフォローや女性ヘルスケアに携わったり、とても充実した経験を積ませていただいています。分からないことや悩むような症例がある場合はす

ぐに質問できる先生方がいる環境なので、少しずつですが着実にできることが増え、地域の皆様に貢献できているようになっていけると実感しています。今後もさらに地域の皆様に尽力できるよう精進していきたいと思っています。

白河市は歴史・文化・自然の調和のとれた街ですが、自然に恵まれている一方で交通の便でも新幹線がありどこにでも便利に行けるためとても住みやすい街です。白河での研修に興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

坂齋 健人

専攻医1年目



2021年10月より
白河厚生総合病院で研修

外来診察の積み重ねが知識や技術の向上に

私は昭和大学産婦人科学講座に所属し、専攻医地域研修として2022年10月より会津若松市にある竹田綜合病院産婦人科で勤務しております。赴任時は専攻医1年目で慣れないことも多く不安でしたが、福島県立医科大学の先生方と分け隔てなくご指導いただき様々な症例の診療に携わることができています。

竹田綜合病院にきてから初めて妊婦健診や婦人科外来をもつことになりました。これまで患者さんとは入院している間しか接したことがなく、自身で診断や治療方針を決定するという経験がありませんでしたが、外来を担当することで診断から投薬や手術、術後のフォローまで、継続して一人の患者さんに関わる機会ができました。上級医の先生に指導をいただきながらではありますが少しずつ自身で考えるための知識や技術が身についてきたように思います。悪性腫瘍の症例についても主担当としてICや手術、診療を行う経験をさせていただいています。また、周産期センターとしてハイリスク妊娠の管理もありま

田村 麻里子

専攻医1年目



す。患者さんが悪化した際に母体搬送に時間がかかったり、近辺に病院が少ないなど医学的判断以外の要素も考慮する必要があったりと、地域ならではの難しさを感じています。

会津は冬になると雪が降り生活で大変な面もありますが、温泉やスキーに行ったり、ラーメンなどおいしいごはんを食べに出かけたりと楽しみもあります。福島県、会津若松での研修に興味がある方はぜひ一度見学にいらしてください。



2022年10月より
竹田綜合病院で研修

地域の中核病院に求められる役割を日々実感

こんにちは。昭和大学医学部産婦人科学講座2021年度入局の清水文香です。2022年10月より地域研修として白河厚生総合病院に勤務しております。当初は知り合いのいない土地での研修に少々不安もありましたが、いつも相談ののってくださる先生方、とても親切で気さくなスタッフの方々に日々助けられながら、アットホームな雰囲気の中で楽しく診療させていただいております。

当院は福島県南地域の産婦人科医療全般を担っており、周産期医学・生殖内分泌学・婦人科腫瘍学・女性医学全てをまんべんなく学ぶことができます。特に婦人科外来では、自分で術前管理から術後のフォローアップまでを一貫して担当させていただいたり、更年期障害の患者さんと相談しながらよりよい治療法を探ったりと、関東の総合病院や大学病院では携われなかったような経験ができ、充実した研修生活を送っています。

また、思春期から老年期まで幅広い年齢層の患者さんが、それぞれいろいろな悩みを抱えて受診され、地域の中核病院として女性の一生

清水 文香

専攻医2年目



を支えていることを日々実感し、大きな役割を担っているのだと強く感じております。

白河市は新幹線の停車駅があり交通の便もよいため東北のみならず関東地方へのアクセスもよく住みやすい街です。福島県の中では雪が少なく、春は桜、秋は紅葉が綺麗で、四季折々の景色を楽しめます。白河での研修に興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。



2022年10月より
白河厚生総合病院で研修

主体的な診療で力が付いていきます

昭和大学医学部産婦人科学講座、2023年度入局の永元慶佑です。専攻医の地域医療研修として、2023年10月より会津若松市の竹田綜合病院に勤務しております。専攻医1年目での異動で、赴任時には不安もありましたが、先生方のご指導のもと、多くの診療に携わることができています。

竹田綜合病院に来る前は外来診療を行う場面がほとんどなく、初めて妊婦健診、婦人科外来を受け持つことになりました。入院の方とはまた違った様子で、戸惑ったり迷ったりすることもあります。上級医の先生方にご指導いただきながら診療を進められることに、大きなやりがいを感じています。初診から担当し、手術のICや執刀、術後のフォローアップまで、専攻医であっても担当させていただける範囲が広く、まだまだ未熟ではありますが力が付いていくのを実感しています。入院患者の方も、主治医として受け持つのは初めてで、たくさんご相談し、日々悩みなながらも主体的に診療でき、充実した生活を送っ

永元 慶佑

専攻医1年目



ております。

また、地域の周産期センターとして、ハイリスク妊娠の管理もあります。自院でできること、できないことを考慮し、必要時は母体搬送を行う必要がありますが、患者さんが遠くに住んでいる、搬送に時間がかかるなど、地域ならではの難しさも感じております。

会津は雪深く、冬場の生活は大変な側面もありますが、歴史のある街並み、おいしいもの、豊かな自然など、ここでしか体験できないことがたくさんあります。福島県、会津若松での研修に興味がある方、ぜひ一度見学にいらしてください。



2023年10月より
竹田綜合病院で研修

地域の中核病院に求められる責任

昭和大学病院所属専攻医の辛俊幸と申します。

現在、白河厚生総合病院にて勤務しています。私は小学生まで栃木県の佐野や那須で生活していたこともあり、白河への配属を希望し2023年10月から勤務しています。

知り合いのいない土地での生活に、初めは不安を感じていました。しかし、街の雰囲気や人の温かさなどは幼少期に過ごしていた地域と似ています。非常に過ごしやすい環境の中で、指導して下さる上級医の先生や親切で気さくなスタッフの方々に助けられながら、日々診療に携わっています。

当院は、福島県南地域の産婦人科医療全般を担っており、周産期医学・生殖内分泌学・婦人科腫瘍学・女性医学全てをまんべんなく学ぶことができます。特に婦人科外来では、自分で術前管理から術後のフォローアップまでを一貫して担当します。月経困難症などの患者さんを外来フォローしながら、その方のライフスタイルや価値観に合わ

辛 俊幸

専攻医 2 年目



せた加療の過程で、段々と生活しやすくなる様子を見るとやり甲斐を感じます。このような関東の総合病院や大学病院では携われなかった経験をしながら、充実した研修生活を送っています。日々、様々な悩みを抱えた方々が受診され、地域の中核病院として女性の一生を支えていることをその都度実感し、大きな役割を担っているのだと強く感じています。

白河市は新幹線の停車駅があり交通の便もよいため、東北のみならず関東地方へのアクセスも便利な住みやすい街です。福島県の中では雪が少なく、春は桜、秋は紅葉が綺麗で、四季折々の景色を楽しめます。白河での研修に興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。



2023年10月より
白河厚生総合病院で研修

魅力的な会津若松にある 竹田総合病院での研修医生活

私は昨年10月より、竹田総合病院で専攻医として勤務しています。竹田総合病院は会津若松市で唯一、新生児科を有する病院であり、分娩件数も多く、ハイリスク分娩も経験できるため、非常に充実した研修環境です。加えて、婦人科症例も豊富なため、産科・婦人科の両分野をバランスよく学ぶことができます。

帝王切開の手技については、昭和医科大学病院とは異なる方法を学ぶ機会があり、新たな技術を習得してスキルアップにつながりました。最初は分娩対応の経験が少なく、わずかな変化にも不安を感じて焦っていましたが、多くの症例を経験する中で、自分の成長を実感しています。腹腔鏡下手術では、比較的容易な付属器切除から執刀させていただいており、手術中の技術指導に加え、術後管理や注意点についても上級医の先生方から丁寧にご指導いただいています。

現在は、専攻医 2 名、指導医 3 名の計 5 名で、外来、病棟管理、分娩、手術、新生児管理まで幅広く担当しており、忙しくも充実した毎日を送っています。その一方で、地方の産婦人科医療の大変さも実感

PIAO HONGYING

(パク コウエイ)

専攻医 2 年目



しています。経験や知識が足りずに戸惑う場面もありますが、そのような時は経験豊富な助産師さんや看護師さんに助けられ、地方医療におけるチームワークの重要性を改めて感じました。また、必ずしもガイドライン通りに診療できない場面もあり、地方ならではの医療の特性や文化にも触れることができます。

研修以外にも、竹田総合病院での生活は魅力にあふれています。美しい自然に囲まれた会津の観光や、美味しい地元料理も楽しむことができ、日々の癒しとなっています。症例経験だけでなく、多くの学びと発見にあふれた竹田総合病院での研修に、私は大変満足しています。ご興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。



2024年10月より
竹田総合病院で研修

地域医療支援事業

1. 事業内容

1) 地域医療支援事業

センターでは2016年の開設以来、福島県内の中核病院で産婦人科、小児科診療に関する医療支援を行ってきました。

2. 2021年～2025年の実績

1) 福島県内の主な医療支援病院（表1）と2021年～2025年の医療支援回数（表2）

表1. 福島県内の主な医療支援病院

地域	病院
県北	大原総合病院、公立藤田総合病院、済生会福島総合病院、福島赤十字病院、南東北福島病院、福島市夜間急病診療所、福島県保健衛生協会、本田クリニック産科婦人科、福島西部病院、北福島医療センター
県中	公立岩瀬病院、太田西ノ内病院、星総合病院、公立小野町地方総合病院
県南	白河厚生総合病院、会田病院
会津	会津中央病院、竹田総合病院
相双	公立相馬総合病院、南相馬市立総合病院
いわき	いわき市医療センター

表2. 福島県内への医療支援回数

年度	医療支援回数（県北-県中-県南-会津-相双-いわき）
2021	396（189-72-75-36-12-12）
2022	452（201-91-96-33-20-11）
2023	359（126-74-99-24-24-12）
2024	444（180-74-86-24-68-12）
合計	1,651（696-311-356-117-124-47）

■人材育成支援事業（医師スキルアップ事業）

1. 事業内容

1) 産婦人科医師スキルアップ事業

(1) 遠隔会議システムを用いた医局勉強会および症例検討会の支援事業

遠隔会議システムを用いた産婦人科医局勉強会（研究報告を含む）および症例検討会の支援を実施しています。会議の内容は、県内の基幹病院勤務の専攻医にも配信しています。

(2) 産婦人科内視鏡下手術の普及支援事業

県内の産婦人科医師の内視鏡下手術（腹腔鏡および子宮鏡下手術）の普及を目的とした研究会および講習会の支援および内視鏡下手術教育に必要な機器の整備を行っています。

(3) 産婦人科医師スキルアップセミナーの開催

県内の産婦人科専攻医を対象としたスキルアップセミナーを開催し、専攻医教育の支援を行っています。

(4) 周産期医療を専門とする医師を対象としたスキルアップセミナーの開催

医大内の小児外科、小児科、産婦人科の医師、医大生を対象とした、スキルアップセミナーを開催しています。

(5) 研究指導

産婦人科専攻医および産婦人科大学院生に対して、学会発表、学術論文作成の支援、研究に関する相談などを実施しています。

2) 卒前・卒後教育支援事業

(1) 医大学生・大学院生への講義

医学部4年生～6年生のベッドサイドラーニング(BSL)において、センター教員による講義を実施しています。

3) 出前講座

県内臨床研修病院からの求めに応じてセンター教員または産科婦人科学講座教員が出向き、講義をする出前講座を行っています。

4) 助成事業

(1) 病院見学経費助成事業

附属病院または県内の医療機関見学に必要な経費を助成しています。

(2) 学会参加費助成事業

医学部学生、初期臨床研修医に対して、産婦人科・小児科に対する関心を高める機会を与えるために、学会参加費を助成しています。

2. 2021年～2025年の実績

1) 産婦人科医師スキルアップ事業

(1) 遠隔会議システムを用いた医局勉強会および症例検討会の支援事業

2017年9月から、毎週火曜日に産婦人科医局勉強会を専攻医が遠隔で参加できるように支援を継続してきました。

(2) 産婦人科内視鏡下手術の普及支援事業

以下の内容で内視鏡下手術の普及支援を実施しました。

ふくしま産婦人科内視鏡研究会

開催日	会の名称	支援内容
2023年3月18日	第9回ふくしま産婦人科内視鏡研究会	実技指導(高橋教授)、助成
2024年6月15日	第10回ふくしま産婦人科内視鏡研究会	実技指導(高橋教授)、助成



第10回ふくしま産婦人科内視鏡研究会 (2024年6月15日)

(3) 産婦人科医師スキルアップセミナー

2020年度から外部講師による専攻医向けの講義をオンラインセミナー形式で開始、2021～2024年度は計15回実施しました。

ふくしま産婦人科医師スキルアップセミナー

開催日	講師(所属)	タイトル	参加者
2021年7月7日	磯部 真倫 特任講師 横山 浩之 教授	動画でゆっくりTLHを学ぼう！ 妊産婦への関わりで子ども虐待を防ごう	22名
2021年9月9日	福島 明宗 特任教授	周産期領域における遺伝医療の実際	26名
2021年12月21日	福井 淳史 特任教授	不育症診療のアップデート：不育症に関する提言2021を読み解く	19名
2022年1月12日	白土 なほ子 先生 (昭和大学医学部産婦人科 講師)	思春期girlsと寄り添うためにー婦人科医ができることー	24名
2022年3月22日	磯部 真倫 特任講師	新潟大学産婦人科の臨床実習改革 ～若手が活躍する実習～	21名

2022年5月24日	小川 真里子 先生 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科 准教授)	産婦人科における摂食障害への対応	17名
2022年11月1日	逸見 博文 先生 (国家公務員共済組合連合会 斗南病院 産婦人科・生殖内分泌科 科長)	安全に子宮鏡下手術を行うコツ ー機器の選択と手技の工夫ー	16名
2023年1月18日	福井 淳史 特任教授	不育症の診断と治療	17名
2023年2月9日	高橋 宏典 先生 (自治医科大学産科婦人科学講座 教授)	分娩時異常出血に対する子宮温存術式のまとめと自治医大の研究紹介	21名
2024年1月22日	磯部 真倫 特任教授	ボスマネジメント～上司とwinwinとなるためのコツ～	12名
2024年3月27日	黒田 優佳子 特任教授	生殖医療における精子品質管理の重要性について	9名
2024年11月28日	金森 豊 特任教授	周産期医療の進歩と小児外科	11名
2024年12月17日	磯部 真倫 特任教授	医療におけるリーダーシップを再考する ～新潟、岐阜の経験から～	11名
2025年2月18日	渡邊 尚文 先生 (武蔵野赤十字病院産婦人科 部長)	婦人科悪性腫瘍におけるゲノム医療について	16名
2025年2月25日	福井 淳史 特任教授	免疫担当細胞を知って不妊症・不育症診療を行おう	20名

(4) 周産期医療を専門とする医師を対象としたスキルアップセミナーの開催

2023年度より、対面とオンラインのハイブリッド形式による全5回の講義を実施しました。

ふくしま周産期・小児セミナー

開催日	講師(所属)	タイトル	参加者
2023年6月23日	宮寄 治 先生 (国立成育医療研究センター放射線診療部 放射線診断科 診療部長)	胎児MRIによる小児外科疾患の診断	58名
2023年10月20日	渡辺 栄一郎 先生 (群馬県立小児医療センター外科部長/東京大学小児外科届出研究員)	腸内細菌叢研究の新潮流：プロテオーム解析を応用した腸内細菌叢の新発見と胎便中のヒトタンパク質解析研究	70名
2024年1月26日	和田 誠司 先生 (国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター長)	日本における胎児治療の現状	30名
2024年6月21日	加治 建 先生 (久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門 主任教授)	短腸症候群の新規治療薬GLP-2アナログ製剤(テデュグルチド)の有効性と可能性	28名
2025年2月21日	山田 洋平 先生 (慶應義塾大学医学部 小児外科 講師)	腸管不全に対する包括的治療戦略	32名

(5) 研究指導

産婦人科の専攻医、若手医師および大学院生への論文指導を11編行い、国内外の雑誌に発表しました。（下線は論文指導したセンター教員です）。

- 1) Ohara M, Yoshida-Komiya H, Ono-Okutsu M, Yamaguchi-Ito A, Takahashi T, Fujimori K. Metformin reduces androgen receptor and upregulates homeobox A10 expression in uterine endometrium in women with polycystic ovary syndrome. *Reprod Biol Endocrinol* 2021; 19 (1) : 77.
- 2) Ueda M, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Suzuki D, Kyojuka H, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Fujimori K. Successful pregnancy and term delivery after treatment of unicornuate uterus with non-communicating rudimentary horn pregnancy with local methotrexate injection followed by laparoscopic resection: a case report and literature review. *BMC Pregnancy Childbirth* 2021; 21 (1) : 715.
- 3) Fujimori M, Takahashi T, Furukawa Y, Takanashi A, Iizawa Y, Jimbo M, Soeda S, Fujimori K, Takeichi K. Synchronous bilateral primary ovarian cancer with right endometrioid carcinoma and left high-grade serous carcinoma: a case report and literature review. *BMC Womens Health* 2022; 22 (1) : 103.
- 4) Shiraiwa A, Takahashi T, Okoshi C, Wada M, Ota K, Suganuma R, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Yoshida-Komiya H, Fujimori K. Successful pregnancy and delivery after a vitrified-warmed embryo transfer in a woman with Kallmann syndrome: A case report and literature review. *Fukushima J Med Sci* 2022; 68 (1) : 49-55.
- 5) Kamo N, Takahashi T, Soeda S, Jimbo M, Yoshida-Komiya H, Fujimori K. Hydrosalpinx in a premenarcheal 14-year-old girl with the proliferation of smooth muscle cells in the isthmus of the fallopian tube: A case report. *J Obstet Gynaecol Res* 2023; 49 (2) : 769-774.
- 6) Mori M, Nishigori T, Ogata Y, Suzuki T, Sato A, Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Metoki H, Shinohara Y, Takahashi T, Shinoki K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Hashimoto K, Goto A, Nishigori H. Japan Environment and Children's Study Group. Maternal prenatal psychological distress and motor/cognitive development in two-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis.* 2023;14 (3) :389-401.
- 7) Suzuki T, Nishigori T, Obara T, Mori M, Sakurai K, Ishikuro M, Hamada H, Saito M, Sugawara J, Arima T, Metoki H, Kuriyama S, Goto A, Yaegashi N, Nishigori H. Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan environment and children's study. *Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol.* 2023;58 (11) :1603-1624.
- 8) Okoshi C, Takahashi T, Fukatsu M, Suganuma R, Ikezoe T, Fujimori K. A case of delayed postoperative bleeding after excision of endometrial polyp using resectoscope in an infertile woman with von Willebrand disease: a case report and literature review. *Fukushima J Med Sci* 2023; 69 (3) : 197-204.
- 9) 阿久津和子, 後藤あや, 荒井有希, 横山浩之. 子どもの行動観察調査から考えた育てにくさの検討、チャイルドヘルス2024 ; 27 (4) : 314-319
- 10) Akutsu K, Goto A, Abo-Rass F, Yokoyama H. Evaluating the Effectiveness of Parent Train-

ing Pamphlets: An Intervention Study Among Parents at Child Health Checkups. J Prim Care Community Health. 2025;16: 21501319251317340.

- 11) Okoshi C, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Murata T, Isogami H, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga S, Katoh T, Fujimori K, Takahashi T: Risk of Gestational Diabetes in Women With PCOS Based on Body Mass Index: The Japan Environment and Children's Study. J Clin Endocrinol Metab 2025, 110 (4) :e1167-e1172.

2) 卒前・卒後教育支援事業

(1) 医大学生・大学院生への講義

2016年よりBSL実習中の医学部生に対して常勤または非常勤のセンター教員が講義を実施しています。

3) 出前講座

2021年4月から2025年3月までに計9回の出前講座を実施。

開催日	講師	病院名	タイトル
2021年6月9日	高橋 俊文 教授	星総合病院	他科の先生にも役立つ婦人科救急疾患のツボ
2022年2月24日	高橋 俊文 教授	大原総合病院	救急外来で役立つ産婦人科疾患のツボ
2023年3月23日	高橋 俊文 教授	大原総合病院	救急外来で役立つ産婦人科疾患のツボ
2023年8月7日	高橋 俊文 教授 小川 真里子 特任教授 (東京歯科大学市川総合病院 産婦人科 准教授)	いわき市医療センター*	産婦人科医療のすすめ(高橋) 女性を心身両面から支える女性ヘル スケア(小川)
2023年9月6日	高橋 俊文 教授	公立相馬総合病院**	小児・AYAがん患者における妊孕 性温存 -がん・生殖医療の実際-
2023年11月21日	高橋 俊文 教授	竹田総合病院	他科の先生にも役立つ婦人科救急 疾患のツボ
2024年3月14日	高橋 俊文 教授	大原総合病院	救急外来で役立つ産婦人科疾患の ツボ 産婦人科医以外の先生方へ
2024年12月4日	高橋 俊文 教授	いわき市医療センター***	救急外来で役立つ産婦人科疾患の ツボ
2025年1月28日	高橋 俊文 教授	白河厚生総合病院	救急外来で役立つ産婦人科疾患の ツボ
2025年2月28日	高橋 俊文 教授	南相馬市立病院****	救急外来で役立つ産婦人科疾患の ツボ
2025年3月13日	高橋 俊文 教授	大原総合病院	救急外来で役立つ産婦人科疾患の ツボ

* 第1回浜通り地区ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会

** 第2回浜通り地区ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会

*** 第3回浜通り地区ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会

**** 第4回浜通り地区ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会

福島県立医大内医療支援事業

1. 事業内容

1) 診療支援事業

産婦人科、小児科、小児集中治療室(PICU)、小児外科と協力して診療の支援を行ってきました。

2) 高難度新規医療技術およびがん・生殖医療の実施に関する支援事業

(1) 婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の技術支援

高難度新規医療技術に相当する、婦人科悪性腫瘍(子宮体がんと子宮頸がん)に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の技術支援を行いました。

(2) がん・生殖医療の実施に対する環境整備支援

医大の生殖医療センターで実施している、がん患者における妊孕性温存治療の実践と支援を行っています。

2. 2021年～2025年の実績

1) 診療支援事業

(1) 産婦人科診療支援

高橋 俊文 教授：新患外来、手術

西郡 秀和 教授：助産師外来

小川 真里子 教授：性差医療外来

神保 正利 特任教授：産科外来、病棟、手術

福島 明宗 特任教授：遺伝専門外来(～2024年)

磯部 真倫 特任教授：婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術

(2) 生殖医療センター診療支援

高橋 俊文 教授：生殖医療センター部長兼務(2025年4月～)、外来

小川 真里子 教授：外来

生殖医療センターの生殖補助医療の診療実績

年(1～12月)	採卵件数	胚移植件数
2021	418	503
2022	402	496
2023	449	555
2024	489	490

(3) 助産師外来の運営支援

助産師外来の支援と助産師外来強化のため超音波診断装置を用いた助産師への指導を行っています。

(4) 小児科診療支援

横山 浩之 教授：小児発達障害専門外来

(5) PICU 診療支援

当センターの非常勤教員は、PICU 開設以来、PICU の医師、コメディカルの指導と患者管理を支援してきました。

清水 直樹 特任教授：PICU の診療指導と患者管理

新津 健裕 特任准教授：PICU の診療指導と患者管理

齊藤 修 特任准教授：PICU の診療指導と患者管理

荻原 重俊 特任助教：PICU の患者管理

PICU 病棟への入院患者数

年度	入院患者数
2021	55
2022	54
2023	50
2024	60



福島県立医科大学附属病院 PICUスタッフ一同

(6) 小児外科診療支援

南 洋輔 特任助教：外来、病棟、手術（～ 2023 年）

金森 豊 特任教授：カンファレンスでの助言、手術の指導（2022 年～）

小児外科手術件数

年度	手術件数
2021	200
2022	183
2023	177
2024	170



福島県立医科大学附属病院小児外科医局員一同

2) 高難度医療およびがん・生殖医療の実施に関する支援事業

(1) 婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の技術支援

磯部真倫特任教授を招へいし、婦人科悪性腫瘍への腹腔鏡下手術の技術指導を受け、2018年から保険診療による同手術を実施しています。

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん・頸がん）の実施件数

年度	実施件数（子宮体がん－頸がん）
2021	7（7－0）
2022	4（4－0）
2023	9（4－5）
2024	8（5－3）

(2) がん・生殖医療の実施に対する環境整備支援

がん・生殖医療は、がん患者の妊孕性温存に関するカウンセリングならびに配偶子（精子・卵子）の凍結保存を含む医療行為を指します。2017年より、本学内の生殖医療センターにおいても当該医療の実施が可能となり、当センターでは施設申請等に関して支援を提供しております。さらに、2025年4月より当センター長である高橋が生殖医療センター部長を兼任するとともに、日本がん・生殖医療学会認定ナビゲーター資格を取得し、実施体制整備の支援に従事しています。

■ 広報・啓発事業

1. 事業内容

1) ふくしま子ども・女性医療支援センターのホームページおよび facebook ページ作成

2) ふくしま子ども・女性医療支援センターパンフレット作成

子ども・女性医療支援センターのパンフレットを作成、全国の医育機関と臨床研修指定病院にパンフレットを配布し、福島県内への医師招へいを促進する広報活動を継続して行っています。

3) 産婦人科・小児科専門研修プログラムパンフレット作成

医大の産婦人科・小児科専門研修プログラムについてのパンフレットを作成、全国の医育機関と臨床研修指定病院に配布し、福島県内での産婦人科、小児科の専攻医の増加を促進する広報活動を継続して行っています。

4) 学生・研修医向け広報活動

1～3年の医学生（医大および福島県の修学資金貸与制度を利用している県外の医学部に在籍する学生）を対象として、産婦人科、小児科、小児外科のハンズオントレーニングと各診療科のガイダンスを継続して実施しています。

5) 社会啓発活動

公開講座の開催とともに、センター教員を中心とした執筆者が、県民向けに子どもと女性の健康についてのコラムを執筆し、新聞で連載しました。

2. 2021年～2025年の実績

1) ふくしま子ども・女性医療支援センターのホームページおよび Facebook ページ作成

ホームページ (<https://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>) を作成し、センター事業内容および講演・セミナーのお知らせを掲示しています。

Facebook ページ（福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センターで登録）を開設、運営しています。

2) 子ども・女性医療支援センターパンフレット作成

2016年から毎年度、ふくしま子ども・女性医療支援センターのパンフレット作成し、全国の医育機関と臨床研修指定病院にパンフレットを配布しています。

3) 産婦人科・小児科研修プログラムパンフレット作成

2018年から毎年度、医大の産婦人科・小児科専門研修プログラムパンフレットを作成し、全国の医育機関と臨床研修指定病院にパンフレットを配布しています。

4) 学生・研修医向け広報活動

ふくしま子ども・女性医療支援センター産婦人科・小児科・小児外科ハンズオン・トレーニングガイダンス

年度	開催日	参加者	参加者の内訳
2020	2021年3月1日	17名	医大1年9名、2年2名、3年6名
2021	コロナ感染症の流行のため中止		
2022	2023年3月14日	17名	医大1年8名、2年3名、3年6名
2023	2024年3月11日	8名	医大1年3名、2年2名、3年3名
2024	2025年3月11日	11名	医大1年4名、2年1名、医大3年6名

インストラクターと実施内容

インストラクター	実施内容
・センター教員(高橋俊文教授、神保正利特任教授) ・産婦人科 ・小児科 ・小児外科 ・看護技師(助産師)	センター、産婦人科、小児科、小児外科の紹介 体験型ガイダンス ・糸結び、縫合結紮実習、切開法実習 ・分娩シミュレーターを用いた分娩実習、妊婦体験 ・腹腔鏡における体内結紮・縫合体験 ・小児蘇生実習、小児縫合実習 ・胎児ファントムを用いた超音波診断実習

糸結び、縫合結紮、切開法



分娩シミュレーション、妊婦体験



小児蘇生



小児縫合



胎児超音波・腹腔鏡の体内縫合



(2024年度ふくしま子ども・女性医療支援センター産婦人科・小児科・小児外科ハンズオン・トレーニングガイダンス、2025年3月11日、医大スキルラボにて開催)

5) 社会啓発活動

<公開講座など>

開催日(場所)	講演会名	講師	タイトル	参加者(内訳)
2024年7月25日 (南相馬市立総合病院)	相馬郡医師会 小児科研修会	金森 豊 特任教授	外来で遭遇する小児 外科疾患ーその多様 性・希少性ー	23名 (医師14、看護師3、 研修医5、他1)
2024年3月7日 (福島県立医科大学, オンライン)	こども医療センター 特別セミナー	山田 治美さん (群馬大学医学部附属 病院小児科病棟保育士 Hospital Play Specialist,HPS)	子どもと医療をつな ぐ懸け橋としてーホ スピタル・プレイ・ スペシャリストの役 割と活動の実際ー	64名 (会場21、オンライン 43)

<子どもと女性の健康相談室(福島民報連載)>

掲載回数	掲載日	執筆者	タイトル
61	2021年4月19日	高橋 俊文	センターの使命
62	2021年5月17日	細矢 光亮	安心して産み育てるため
63	2021年6月21日	添田 周	不正出血
64	2021年7月19日	横山 浩之	メディアと行動異常
65	2021年8月9日	小宮 ひろみ	女性医療と漢方療法
66	2021年9月20日	田中 秀明	赤ちゃんの多量の嘔吐
67	2021年10月18日	西郡 秀和	エコチル調査
68	2021年11月22日	斎藤 康	小児集中治療室
69	2021年12月20日	神保 正利	子宮頸がんワクチン
70	2022年1月17日	郷 勇人	NICU
71	2022年2月21日	高橋 俊文	不妊治療の先天異常率
72	2022年3月21日	横山 浩之	メディアと行動異常②
73	2022年4月25日	高橋 俊文	センターのこれから
74	2022年5月23日	細矢 光亮	県内の周産期医療
75	2022年6月20日	添田 周	子宮頸がん
76	2022年7月18日	横山 浩之	不登校の増加
77	2022年8月15日	小宮 ひろみ	骨粗しょう症
78	2022年9月19日	田中 秀明	臍ヘルニア
79	2022年10月31日	西郡 秀和	産後のパパ育休
80	2022年11月21日	斉藤 修	子どもの呼吸器感染症
81	2022年12月20日	高橋 俊文	胚培養士の仕事
82	2023年1月16日	郷 勇人	新生児マススクリーニング検査
83	2023年2月27日	高橋 俊文	体重減少性無月経

84	2023年3月20日	横山 浩之	子どもの反抗
85	2023年4月24日	高橋 俊文	体外受精治療
86	2023年5月22日	佐藤 晶論	小児集中治療室
87	2023年6月19日	郷 勇人	新生児・乳児の栄養素
88	2023年7月31日	西郡 秀和	子どもの将来の健康
89	2023年8月28日	横山 浩之	アレルギー疾患
90	2023年9月25日	小宮 ひろみ	漢方と芍薬
91	2023年10月23日	添田 周	女性のがん治療の進歩
92	2023年11月27日	福井 淳史	不育症
93	2023年12月18日	小川 真里子	若い女性の痩せ
94	2024年1月29日	田中 秀明	子どもの肝臓移植
95	2024年2月19日	横山 浩之	食物アレルギー
96	2024年3月25日	高橋 俊文	社会的卵子凍結
97	2024年4月22日	小川 真里子	更年期
98	2024年5月27日	黒田 優佳子	精子から見た不妊症
99	2024年7月8日	横山 浩之	思春期
100	2024年8月26日	高橋 俊文	妊娠に適したタイミングとは

子どもと女性の健康相談室

96

「卵子凍結」という言葉をご存じでしょうか。卵子凍結は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

「卵子凍結」という言葉をご存じでしょうか。卵子凍結は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

妊娠の可能性を残す

「卵子凍結」という言葉をご存じでしょうか。卵子凍結は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

「卵子凍結」という言葉をご存じでしょうか。卵子凍結は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長 高橋 俊文氏

前記に十分な情報提供を受けてから実施することが必要です。

東京都は2023（令和5）年度から、都内に住む18歳から39歳までの女性を対象に、社会的卵子凍結に関する助成金制度を開始しました。社会的卵子凍結の先進地域である欧米のデータによると、実際に凍結卵子を用いて治療した女性全体の1割程度であることから、日本でも実際に凍結卵子が追加する可能性があります。

日本産科婦人科学会では、社会的卵子凍結保存を求めている女性に向けて、そのメリットとデメリットを説明しているの参考としていたが、今回は4月22日掲載

ふくしま子ども・女性医療支援センター
<http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>

子どもと女性の健康相談室

97

女性の更年期は、閉経前の5年間と閉経後の5年間をあわせて10年間と定義されています。では閉経はどのようなタイミングで決まるのでしょうか。

症状に適切な治療を

「更年期」という言葉をご存じでしょうか。更年期は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

「更年期」という言葉をご存じでしょうか。更年期は、女性が将来、妊娠・出産を希望する可能性を残す方法です。

ふくしま子ども・女性医療支援センター 小川 真里子氏

中にもホットフラッシュは更年期症状として特徴的で、日本人女性の約40〜70%が経験するとされています。更年期症状に対する治療法は、薬物療法とホルモン補充療法が挙げられます。

主な更年期症状

血管運動神経症状	精神的症状	泌尿生殖器症状	その他
ホットフラッシュ（ほてり）、発汗、動悸、冷えなど	うつ、不安、イライラ、集中低下、不眠、情緒不安定など	尿もれ、尿頻、尿急、尿の渾濁、性交痛など	肩こり、めまい、腰痛、頭痛など

・300種類以上あるともいわれる
 ・ひとりの女性が複数の症状を経験

日常生活や仕事に影響

ふくしま子ども・女性医療支援センター
<http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>

広報・啓発事業
〈ふくしま子ども・女性医療支援センターパンフレット（2025年度版）〉



センタースーパーバイザーおよび教員

吉村 秀典 福島県立医科大学学長 （学長）	高橋 健文 センター長（教授） （学長）	横山 浩之 副センター長（教授） （学長）
西郷 秀和 副センター長（教授） （学長）	神保 正利 副センター長（教授） （学長）	小川 真里子 副センター長（教授） （学長）
清水 直樹 副センター長（教授） （学長）	渡辺 智 副センター長（教授） （学長）	福島 俊彦 副センター長（教授） （学長）
新津 健治 副センター長（教授） （学長）	南 洋輔 副センター長（教授） （学長）	磯部 真樹 副センター長（教授） （学長）
宮本 隆徳 副センター長（教授） （学長）	鈴木 大輔 副センター長（教授） （学長）	奥田 優子 副センター長（教授） （学長）

ふくしま子ども・女性医療支援センター

福島県の産婦人科・小児科医療の向上を一緒に目指しませんか

ふくしま子ども・女性医療支援センターでは、
福島県の子どもと女性の医療に貢献できる、
産婦人科医、小児科医、小児外科医を求めています。

専門医研修協力病院

小児科
産科婦人科

福岡県立医科大学

産婦人科

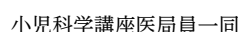
専門医コース

仲間たちと共に目指す産婦人科医療のプロフェッショナル

福井県立医科大学の産婦人科専門研修プログラムでは、基本研修専門医へステップアップできる研修を数多く提供します。

福岡県立医科大学

45

[illegible]

■ その他の事業

1. 事業内容

1) 発達障がい児支援環境の整備事業

センターの横山浩之教授が担当している事業で、福島県内の発達障がい児を含めた行動異常を呈する子どもの早期発見と早期介入を目的としています。発達障がい児の早期発見・早期介入のためには、子ども家庭庁が推し進めている5歳児健診のような早期発見のシステムを構築することが求められています。

2) ふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年記念講演

2. 2021年～2025年の実績

1) 発達障がい児支援環境の整備事業

(1) 発達障がい児支援環境の整備事業の概要

本事業として、①県内の基幹病院にて発達支援外来を行い、臨床陪席によって地域の小児科医による対象児の診療能力を高め、地域における診療を可能とすること、②行政とタイアップして、発達障がい等の早期発見・早期介入のシステム作りを行ってきました。

①については、ほとんどの基幹病院で単独で診療を行える小児科医が存在する状況にこぎつけることができました。3病院では地域の小児科医が発達障がい等に関する専門外来を開設するに至っています。

②については、伊達市において教育委員会との連携のもとで「子育て・就学」相談支援事業を開始することができ、切れ目のない支援につなげることができました。このシステムの要点は、保育所・幼稚園・認定こども園の第三者による客観的な評価によるスクリーニングが行えることと、幼児教育・学校教育によるフォローアップが行われていることといえます。このようなシステムを構築できた医療側のメリットとして、薬物療法が必要なお子さんや詳細な診断が対応に必要な子どもだけが紹介されてくるようになり、医療側の負担が激減しています。また、近年、増加の一途であった不登校が、伊達市においては減少に転じています。

また、伊達市の仕組みを取り入れた5歳児健診を新地町において、令和7年度からスタートしています。これらの先進的な取組を福島県の市町村で活用する取り組みが、福島県医師会・福島県立医科大学小児科学講座との協力の下で行われることとなっています。

(2) 発達障がい児支援環境の整備事業で用いるパンフレット作成

昨今、発達障がいに類似した症状を呈する子どもが増加しています。その代表的な例が、映像メディアの過剰曝露による行動異常です。これらを予防するための取り組みとして、下記のパンフレットを作成しました。令和6年度から会津坂下町・伊達市などでこれらのパンフレットを利用した取り組みが行われています。

(3) 発達障がい児支援に関する啓発活動・社会活動

伊達市の市政アドバイザーに就任し、保育・幼児教育・学校教育への助言・指導を行ったり、地域の小児科医をはじめとした関係者に対する講演活動などを行ってきた。

(3) 発達障がい児支援に関する啓発活動・社会活動

<乳幼児発達・発達障がい関連研修・勉強会>

福島県小児科医会・福島市医師会主催

開催日	会合名	タイトル
2021年4月21日	第8回乳幼児発達研修会①	続・特性がある子どもへの関わり方と保護者支援
2021年5月19日	第9回乳幼児発達研修会②	特性がある子どもへの関わり方と保護者支援 part 3
2021年6月16日	第10回乳幼児発達研修会③	特性がある子どもへの関わり方と保護者支援 part 4
2021年7月21日	第11回乳幼児発達研修会④	特性がある子どもへの関わり方と保護者支援 part 5
2021年10月20日	第12回乳幼児発達研修会⑤	不登校の原因と対策を知る
2021年11月17日	第13回乳幼児発達研修会⑥	不登校の原因と対策を知る part 2
2021年12月15日	第14回乳幼児発達研修会⑦	不登校の原因と対策を知る part 3
2022年1月19日	第15回乳幼児発達研修会⑧	不登校の原因と対策を知る

相馬郡医師会・相馬市教育委員会学校教育課主催

開催日	会合名	タイトル
2021年6月8日	発達障害勉強会	メディアによる子育ては何をもたらすか
2021年7月13日	発達障害勉強会	メディアの問題をどう解決するか
2021年12月14日	発達障害勉強会	不登校の原因と対策を知る part 2
2022年1月11日	発達障害勉強会	不登校の原因と対策を知る part 3
2022年3月8日	発達障害勉強会	不登校の原因と対策を知る
2024年6月11日	発達障がい児対策勉強会	「メディアの問題」とは何を意味するのか？
2024年10月8日	発達障がい児対策勉強会	伊達市における切れ目のない支援事業について

<愛着障害・ペアレントトレーニング（PT）関連研修会>

白河市健康福祉部こども支援課母子健康係主催

開催日	会合名	タイトル
2021年6月21日	愛着障害研修会①	不適切な子育てと行動異常
2021年7月5日	愛着障害研修会②	愛着形成PT（父親役）
2021年8月2日	愛着障害研修会③	愛着障害・発達障害の発見と対応
2021年9月1日	PT研修会①	PT
2021年10月18日	PT研修会②	PT
2021年11月15日	PT研修会③	PT
2021年12月20日	PT研修会④	PT
2022年2月2日	PT研修会⑤	PT

星総合病院（郡山市）主催

開催日	会合名	タイトル
2021年9月1日	PT講座①	こどもへの賢い対応を覚えよう
2021年10月18日	PT講座②	こどもへの賢い対応を覚えよう
2021年11月15日	PT講座③	こどもへの賢い対応を覚えよう
2021年12月20日	PT講座④	こどもへの賢い対応を覚えよう

<教育・講演・指導活動>

伊達市教育委員会主催

開催日	会合名	タイトル
2022年5月26日	特別支援介助員研修会	教室における介助員の望ましい支援の在り方
2022年6月25日	PTA教養講座	自立と二次反抗期、生活習慣の身につけ方
2022年9月8日	教職員研修講座	医療現場から見た特別支援学級での指導・支援
2023年9月14日	教職員研修講座	医療現場から見た不登校の原因と対策
2024年2月17日	子育て講演会	保護者の関わり方やSNS等メディアとの適切な関わり方
2024年9月12日	教職員研修講座	通常学級で支援が必要な児童生徒への対応

その他の講演・指導活動

- ・ ADHD 通級指導教室研修会（2024 年 5 月 8 日、5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 10 日）
- ・ 保育・幼児教育のための初心者講座（2023 年 10 月 10 日）
- ・ 中村幼稚園講演（2024 年 2 月 3 日）
- ・ 相馬医師会講演（2025 年 2 月 12 日）

<市政アドバイザー・教育支援委員会等の活動>

- ・ 市政アドバイザー（伊達市教育委員会）：審議会・指導・助言など 50 件
- ・ 白河っ子応援事業（白河市）：指導・助言など 9 件
- ・ 福島市教育支援委員会（福島市）：審議会・児童相談・指導・助言など 17 件

2) ふくしま子ども・女性医療支援センター開設 10 周年記念講演

2025年4月12日、コラッセふくしま（多目的ホール）（福島市）で、第1回目のふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年記念講演開催しました。

主催：福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター

共催：福島県産科婦人科学会、福島県産婦人科医会、日本小児科学会 福島地方会、福島県小児科医会

内容：主催者挨拶 福島県立医科大学 理事長兼学長 竹之下 誠一

挨拶 福島県保健福祉部部長 菅野 俊彦

イントロダクション 「ふくしま子ども・女性医療支援センターの10年の歩み」

ふくしま子ども・女性医療支援センター センター長 高橋 俊文

招請講演1 「女性のwell-being実現のために」

福島県立医科大学副学長、慶応義塾大学名誉教授 吉村 泰典

招請講演2 「全ての子どもと女性の健康で幸せな人生のために」

参議院議員、元少子化及び女性活躍大臣、元法務大臣 森 まさこ

特別講演 「ふくしまの女性を支える女性医療」

ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授 小川 真里子

(所属・職位は開催日現在、敬称略)



左より、高橋 俊文センター長、吉村 泰典 福島県立医科大学副学長、竹之下 誠一 福島県立医科大学理事長兼学長、菅野 俊彦 福島県保健福祉部部長、森まさこ 参議院議員、小川 真里子 特任教授（所属・職位は開催日現在、敬称略）



左より、神保 正利 特任教授、西郡 秀和 教授、本多 つよし 福島県産婦人科医会会長、菅野 俊彦 福島県保健福祉部部長、吉村 泰典 福島県立医科大学副学長、竹之下 誠一 福島県立医科大学理事長兼学長、高橋 俊文 センター長、藤森敬也 産科婦人科学講座 主任教授、小川 真里子 特任教授、横山 浩之 教授、郷 勇人 小児科学講座 主任教授（所属・職位は開催日現在、敬称略）

■ センター事業の進捗を内堀知事に報告



(2022年 5月17日)



(2023年 1月24日)



(2024年 7月22日)

センター教員



高橋 俊文 (たかはし としふみ)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授・センター長
産婦人科(2016年4月～ 常勤)



福島の子どもの健康を支える 10年の歩みと、これからの10年へ

当センターが取り組む最重要課題は、周産期医療に携わる産婦人科・小児科医師の福島県内への定着です。開設から10年、私たちは「地域に根ざし、専門性を育み、持続可能な医療体制を築く」ことを理念に、診療・教育・地域支援に真摯に向き合ってきました。センターの10年の歩みを振り返るとともに、現在の体制とその強みをご紹介します。

<現在のセンター体制>

2025年4月現在、当センターは産婦人科、小児科、小児外科、小児集中治療の各分野において、常勤・非常勤あわせて16名の体制で運営されています。開設当初は、常勤教員3名(産婦人科2名、小児科1名)でのスタートでしたが、この10年で体制は大きく拡充し、専門性と活動範囲が飛躍的に広がりました。

<センター教員の強み>

当センターの教員には、以下のような大きな強みがあります。

1. 診療と研究を両立できる環境

診療に加えて研究活動にも専念できる体制が整っており、教員はそれぞれのキャリアに応じてアカデミックポジション(教授、准教授、講師、助教など)を得て、長期的な視点での成長が可能です。

2. 自律的な取り組みを尊重する組織文化

センター設立の趣旨を踏まえつつ、各教員が専門性を活かして自主的にテーマを設定し、自由度の高い活動を展開しています。その結果、教育、診療、地域支援における多彩な実績が生まれています。

3. 県からの手厚い支援と豊かな自然環境

福島県の特設診療科に対する研究助成制度(最大3年間)への申請が可能で、これまで多くの教員が採択を受けてきました。また、月に一度の地域医療支援では、若手医師との協働や地域住民との交流、そして福島ならではの豊かな自然に触れる機会にも恵まれています。こうした環境は、心身のバランスを保ちながら働ける貴重な魅力となっています。

<センター長からのメッセージ>

この10年間、私たちが歩んできた道のりは、決して華やかではありません。しかし、「子どもと女性が安心して暮らせる福島」を実現するために、着実に土を耕し、種をまいてきたという強い自負があります。

福島の医療は、震災後の「復興」から「構築」へとステージを進めています。次の10年は、これまで築いてきた基盤の上に、新たな展開を創り上げていく時期です。地域の未来をともに支え、ともに育む仲間として、ぜひ当センターの扉を叩いていただけることを心より願っております。

横山 浩之 (よこやま ひろゆき)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授・副センター長
小児科(2016年4月～ 常勤)



行政と連携した発達障害の早期発見・ 介入のシステム作り

ふくしま子ども・女性医療支援センターに赴任して10年目の節目を迎えた。招聘いただいた細矢光亮教授からいただいたミッションは、①県内の基幹病院にて発達支援外来を行い、それを地域の小児科医が見学することによって発達障害がある子どもの診療を地域でも可能にすること、②行政とタイアップして、発達障害の早期発見・早期介入のシステム作りをすることである。

前者については、公立相馬病院、星総合病院、竹田総合病院、いわき市医療センター、白河厚生総合病院の私の外来に臨床陪席してくださっていた小児科医の先生方が、ご自身で外来を始めているところも増え、私の役割は重症例の診療へと変わってきている。

後者については、紆余曲折があって、なかなか進展しなかった。基幹病院に発達支援外来があると、該当事例をそこに紹介すれば、行政機関としては困らないことが理由としてあげられる。これまで関わってきた市町村は、どこも発達支援外来は皆無で、行政機関が自前で隘路を切り開く必要があった。

不登校・ゲーム依存、昼夜逆転の児童生徒が増加して、県内でも最も多い地域である伊達市である。伊達市教育委員会は、令和3年から、「すこやか伊達っ子【子育て・就学】相談支援事業」を少しずつ準備し、この事業は、文部科学省教育支援整備事業費補助金「切れ目のない支援体制整備充実事業」にも採択された。立役者は元保原小学校校長の佐々木義通先生で、現在は教育委員会学校教育課指導主事としてご活躍なさっている。私は市政アドバイザーとして関わらせていただいている。

伊達市の取組は、①適正就学支援、②「子育て・就学」相談／サポート、③保育園・幼稚園・子ども園支援、④相談支援員による学校支援の4本柱からなる。私見では、5歳児(年中児)において、発達障害や環境要因による行動異常児のスクリーニングを行い、その子どもを保育園・幼稚園・子ども園の支援につなげ、就学時健診を利用して保護者の理解を図り、その後も特別支援教育における多様な学びの場の確保とその質の向上をはかっているように思う。まさに切れ目のない支援であり、関わる全ての方々が得をする仕組みだ。

折しも、子ども家庭庁による5歳児健診への予算措置が令和6年からスタートしており、伊達市の取組は、その先鞭をつけたものといえよう。今年度からは、新地町でも同様の取組が始めることができた。お世話いただいている先生方に心から感謝申し上げて、本稿を閉じたい。

西郡 秀和 (にしごおり ひでかず)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授
産婦人科(2019年4月～ 常勤)



福島県周産期医療の臨床・教育・研究の 充実に向けて

周産期医学が主な専門であり、福島県周産期医療の臨床・教育・研究分野のさらなる充実に向けて、主に以下の活動を行った。

- 1) 福島県の周産期医療のさらなる質の向上に向けて、助産師外来等の機能拡充に向けた支援を行っている。福島県立医科大学附属病院に勤務する助産師を対象に模擬妊婦人形(ファントム)を用いた超音波検査実習をマンツーマン指導で行った。
- 2) 福島県立医科大学大学院医学研究科発達環境医学分野(医学博士課程)を2019年10月より開設している。本名称は「子どもの発達障害予防や軽減のために、より良い環境要因を明らかにして環境改善とその啓発を諮りたい」という願いを込めている。周産期・乳幼児環境(メンタルヘルス、食生活など)と子どもの神経発達を主なテーマとしている。大学院生計2名が、日本周産期メンタルヘルス学会学術集会最優秀賞である岡野賞を2022年度および2024年度に受賞した。2025年3月に大学院生1名が医学博士を取得した。
- 3) 福島県立医科大学が参画している環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」(英語名Japan Environment and Children's Study)の福島ユニットセンター・副センター長を兼務している。学術ワーキンググループ勉強会の活動などを通じて、エコチル調査を通じた福島県立医科大学の産婦人科・小児科等の若手・中堅医師等の研究支援に参画している。2021年4月から2024年3月までに掲載された福島県立医科大学所属筆頭著者のエコチル英語論文は約60編であった(業績参照)。これらエコチル調査から得られた貴重な成果について、福島県内の母子保健関係者への共有活動を行った。
- 4) 福島市こども未来部こども家庭課主催;プレママ&プレパパ教室の講師を担当した。
- 5) 福島県、福島市、いわき市の母子保健指導者等を対象にした研修会において、周産期メンタルヘルスやプレコンセプションケア等に関する講演を行った。
- 6) 福島県立医科大学医学部BSL、福島県立医科大学看護学部母性看護学、別科助産学専攻、大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻助産師コースおよび福島県立総合衛生学院助産科において、授業を担当した。

神保 正利 (じんば まさとし)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授
産婦人科(2018年9月～ 常勤)



ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設10周年に寄せて —これまでに取り組んできたことについて—

2018年9月に産婦人科医師としてふくしま子ども・女性医療支援センターに赴任し、あっという間に7年が経ちました。当センターには福島県立医大産科婦人科学講座と連携協力して地域医療支援、若手医師への臨床指導や研究指導などのスキルアップ支援、学内外の医師に対する卒後教育といった役割があります。センター開設10周年にあたり、これまでに私が取り組んできたことについて報告させていただきます。

まず私の赴任後に始まったセンター事業として県外産婦人科医療機関と連携した若手医師の育成と県内医療支援が行われております。具体的には私の出身である昭和大学(2025年4月より昭和医科大学に校名を変更)産婦人科の専攻医に地域医療の場(福島県内)で臨床経験を積ませること、そして産婦人科医師が不足している福島県に県外より医師を受け入れてマンパワーを強化するという出す側と受ける側の思惑が一致して2019年10月より昭和大学産婦人科専攻医が白河厚生総合病院で、2020年10月より竹田総合病院で研修を開始しております。現在も継続して2つの医療機関で専攻医が1年交代で研修を行っており、当センターではそのサポートをしております。

地域医療支援については私自身、大学病院の他に4つの医療機関で定期的に来外診療や当直業務を行っております。医学はどんどん進歩しており、産婦人科の分野でも新しいことが取り入れられ、置き変わってきている事項が多々あります。個人的にもアップデートしていかななくてはならず、支援業務というよりも勉強させて頂く立場で臨床業務に励んでおります。

教育については医学生や若手医師に対して基礎的な内容を重視して指導を行っています。より専門的で高度な技術指導については優秀な指導者がたくさんおりますので、今は基礎を固めるための教育が私の使命と考えております。

産婦人科における医学部臨床実習BSL (bed side learning) では、産科領域について医学生は分娩開始から経陰分娩が完了するところまで経時的に観察を行うことにより、教科書では理解しづらい分娩について学習すべきところですが、しかし昨今、諸般の事情によって、医学生が経陰分娩を見学できる機会が減っております。経陰分娩を1件も見学できずに産婦人科のBSLを終了してしまう学生も散見されます。そのような状況を鑑みてBSL期間中の私の講義では、分娩について模型や分娩シミュレーターを用いてなるべく実際に近い分娩の状況を演出して指導を行っています。また、実臨床ではなかなかできない内診手技についても内診モジュールで体験してもらっています。

また、2020年度からは福島医大の医学部1-3年生の希望者を対象に、産婦人科、小児科、小児外科の紹介を兼ねて、シミュレーターなどを用いた実践的なガイダンス(ハンズオントレーニングガイダンス)を毎年行っています。系統講義や実習などで臨床を本格的に学ぶ前に診療科を知ってもらい、さらにそれぞれの診療科の医局員と関わりを持って親近感を得てもらうことで、将来的に福島県内の産婦人科医、小児科医、小児外科医の増加につなげることを目的としたガイダンスとなっております。今後は開催時期や内容を検討しつつ、より多くの医学生が参加しやすいガイダンスにしていきたいと考えております。

以上、取り組んできたことについて紹介させて頂きましたが、今後もできることを地道に積み重ねていき、福島県の医療がさらに良くなっていくよう尽力していければと思っております。

小川 真里子 (おがわ まりこ)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授
産婦人科(2024年4月～ 常勤)



女性ヘルスケアで福島の女性の 幸せ度アップに貢献したい

2024年4月より、千葉県の東京歯科大学市川総合病院産婦人科から、ふくしま子ども・女性医療支援センターに赴任させていただきました。もともと福島県立医科大学の卒業生ですが、大学卒業後は福島での記憶も薄くなっていましたので、ここに来て日々、大学時代のいろいろな青くさい出来事を思い出し、一人で赤面しております。一方、この紙面でご報告できるような事はまだあまりございませんが、とりあえずは自身の現時点での取り組みと、今後の抱負を記させていただきたいと思います。

私の専門は、前センター長であられた水沼英樹先生が確立された、産婦人科における第4の専門分野である、女性医学(女性ヘルスケア)です。専攻医として過ごした慶應義塾大学産科婦人科学教室で、更年期研究班に所属させていただき、閉経後脂質異常症に関する論文で医学博士を取得いたしました。

今のところ、下記の事柄に従事させていただいております。

1. 性差医療センターでのカウンセリングおよび外来診療

福島県立医科大学附属病院に着任し、最初に行わせていただいたのが、この外来でした。更年期障害や月経随伴症状、性別違和など、さまざまな困難をかかえた患者さんが来院されます。外来を開始し、福島県内でも福島市近郊だけでなく、いわき市や白河、会津地方、さらに隣の宮城県、山形県などからも患者さんが来院されることに驚きました。さらに多くの困難を抱えた患者さんの受け皿になるべく、努力したいと思います。

2. ホルモン外来

水沼先生が行われていたホルモン外来を復活させたいと考え、今年度から少しずつ開始しています。更年期障害に対するホルモン補充療法だけでなく、がんサバイバーのヘルスケアなども積極的に行っていきたいと考えています。

3. 女性ヘルスケア領域の後進の育成

現在、女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医を取得するには、認定研修施設での研修を経ることが必要になっています。女性ヘルスケア指導医として、研修を行いたいと考える若手医師のお役に立てればと思います。

4. 女性の健康問題とその支援に関する講演活動

おかげさまで、福島県内のさまざまな場所で、女性の健康問題などに関する講演活動を行わせていただいております。対象も医療従事者、企業、一般市民とさまざまです。女性は妊娠・出産をになう性別であるために、女性ホルモンの変動にさらされ、また良い意味でも悪い意味でも女性ホルモンの影響を大きく受けています。女性がさまざまな場面で活躍するには、女性ホルモに伴う疾患の理解が必要です。このことをより多くの方々に知っていただくような、活動を広げられれば幸いです。

今後は上記に加えさまざまなチャレンジを通して、福島県の女性が適切な女性医療を受けられ、日々を快適に過ごせるようなお手伝いに、取り組んでいきたいと考えています。

金森 豊 (かなもり ゆたか)

ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授
小児外科(2022年4月～ 非常勤)



センター開設10周年への祝辞と活動報告

福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年おめでとうございます。

私は小児外科特任教授として2022年11月に赴任いたしました。当時国立成育医療研究センター外科に勤務しておりましたが定年退官を前に本学小児外科教授の田中秀明先生からお声がけをいただき、福島県の小児外科医療や小児医療の発展に少しでも寄与できればと活動をさせていただいております。

小児外科という診療科は鼠経ヘルニアなどのルーチンに対応すべき疾患のほかに極めてまれな病気が多く、長年診療に携わっていても対応に苦慮することが少なくありません。これまでも本学におきまして多くの稀少疾患の相談を受け対応をスタッフの先生方と一緒に考えてまいりました。いまだに初めて遭遇する疾患も少なくないために、これからも知恵を出して少しでも力になれるようにと考えております。

また、学生さんや若手の医師の先生方の勉強になるように、ふくしま周産期・小児セミナーと銘打って各方面でご活躍の先生を講師として招聘し講演いただく会を始めまして、これまでに6回の講演会を開催いたしました。

第1回：国立成育医療研究センター放射線診断科 宮嵯治先生・胎児診断の最近の話題

第2回：群馬県立小児医療センター外科 渡辺栄一郎先生・腸内細菌の新しい研究成果

第3回：国立成育医療研究センター胎児診療科 和田誠司先生・胎児治療の現状

第4回：久留米大学小児外科 加治建先生・GLP-2アナログ製剤の効果

第5回：慶応大学小児外科 山田洋平先生・腸管機能不全症の最新の治療

第6回：神奈川県立こども医療センター病理診断科 田中水緒先生・周産期病理の重要性

これからも周産期・小児分野の発展のためのセミナーを開催していく予定です。

さらに、医学生の皆さんの実習の一環として、小児外科医療や小児外科に関係した研究などについて来学の都度短い講義を行ってきました。私はライフワークとして長年腸内細菌の研究をおこなってまいりましたが、この分野でも興味を持ってくれる学生さんや医師の方が出てくるようにと期待を込めてお話をさせていただいております。一人でも小児外科医療や小児外科学に興味を持ってくれる学生さんが出てくれば幸いです。

また本センターの役割の一つである、福島県小児医療の啓蒙と医師のリクルートを目指した活動として、2024年7月に南相馬市で、“外来で遭遇する小児外科疾患”という演題名での講演をいたしました。小児外科医が常駐する病院は数が少ないために、小児外科疾患について理解を深めいただき適切な判断のもと適切な時期に小児外科診療を行っている施設への患者さんのご依頼をいただけるように今後も活動を続けて行ければと思います。

本センターは開設10周年を迎えましたがその役割はまだまだ必要とされていると感じております。これからのますますのご発展をお祈りいたしますとともに少しでもお力になれるように微力ながら努力してまいりたいと考えております。

黒田 優佳子 (くろだ ゆかこ)

KURODA International Medical Reproduction 院長
ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授
産婦人科(2023年4月～ 非常勤)



ふくしま子ども・女性医療支援センター 10周年記念誌に寄せて

私は1987年 慶應義塾大学医学部を卒業して約40年、不妊治療に携わってきた生殖医療を専門にする産婦人科医師です。1980年代、「不妊は女性の問題」という考え方が定着しておりましたので、生殖医学は「卵子」の研究が主流であり、「精子」に関しては全くと言っていいほど関心を持たれていない時代でした。そのような背景の中で、私は20代の大学院時代から『臨床精子学』、具体的には『生殖補助医療においてヒト精子を取り扱う技術開発』の研究を目指しました。その後、一貫して精子研究チーム(慶大医産婦人科・泌尿器科の男性不妊班、および東京大学医科学研究所研究員)の一員として研究を続けて今日に至り、開業して25年、長年の研究成果を男性不妊の患者様に直結して橋渡しする毎日です。

令和の時代になり、「不妊の約半数は男性側に原因がある」という概念が定着し、「精子」という言葉が日常的に話題になるようになりました。しかし未だに、不妊治療の現場では「運動精子＝良好精子」、すなわち「泳いでいる精子は正常である」という認識に留まっています。しかし臨床精子学の研究の進歩により、運動精子の中にもDNA損傷、細胞膜損傷、頭部内部の空胞など、様々な機能や構造の異常が隠れており、「泳いでいるだけでは、生まれてくる子どもの健常性を保証できない」ことが明らかになってきました。これらの異常は、通常の明視野顕微鏡では検知できず、私たち研究チームは『隠れ精子異常』と呼んでいます。その多くは精子形成過程におけるDNAのコピーミス、すなわち『新生突然変異』に由来しますので、隠れ精子異常による男性不妊の治療は難航します。

私の施設では、生殖補助医療を反復しても成果に繋がらなかったご夫婦が数多く相談に見えます。夫の精子を精密検査して気づいたことは、隠れ精子異常の頻度が高いことです。これらの異常は一般精液検査(明視野顕微鏡)では検出されず、高度な分子生物学的な研究技術により初めて見出されます。精子の質に関する情報不足が、妊娠成績向上を阻んでいる現状が明らかになりました。

生殖補助医療は「命を造り出す医療」です。精子の異常が生まれてくる子どもに悪影響を及ぼす可能性があることを忘れてはいけません。安全な生殖補助医療の実現に向けて、私たちの研究成果を周知することが急務です。不妊治療のゴールは「妊娠」ではありません。不妊治療で授かった子どもが「健常に生まれる」こと、そして平均寿命まで「健康に生きる」ことです。

センター教員の研究業績



■ 教員の研究業績 (2021 年 4 月～ 2025 年 3 月)

高橋 俊文 (2021 年 4 月～)

講 演

I. 国内学会

I-1. 国内の全国学会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

該当無し

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

- 1) 高橋俊文. 不妊治療を受ける前の心構え：患者と医療者に知っておいて欲しいこと. <シンポジウム 3：pre-conception care, 受胎前に我々はどうサポートすべきか>. 第45回日本遺伝カウンセリング学会学術講演会, Web開催；2021年7月2日～7月4日
- 2) 高橋俊文. 東日本大震災と生殖医療. <シンポジウム：生殖医療における危機管理—パンデミックの時代を迎えて> 第66回日本生殖医学会学術講演会, hybrid開催 米子；2021年11月11日～12日
- 3) 高橋俊文. 胚培養士のススメ. <シンポジウム：胚培養士の教育と育成> 第63回日本卵子学会学術集会, 京都市；2022年5月28～29日
- 4) 高橋俊文. 小児・AYAがんサバイバー女性のヘルスケア(オンコウィメンズヘルス). <臨床アラワー 3：小児がん経験者(CCS)フォローアップガイド：(CLH 3-3)> 第95回日本内分泌学会学術総会, 別府；2022年6月3日(2～4)
- 5) 高橋俊文. 生殖医療リスクマネジメントシステム構築に関する小委員会<生殖・内分泌委員会企画 生殖医学にいま必要な情報と皆さまと考えたいこと> 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 福岡；2022年8月5～7日
- 6) 高橋俊文. 遺伝性疾患としての性分化疾患—出生前診断と中心に— <シンポジウム染色体異常と性分化疾患> 第8回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会, 新潟；2022年10月29～30日
- 7) 高橋俊文. いまさら聞けない研究発表の基本—生殖医療の現場から正しい情報発信を目指して. <教育講演> 第41回日本受精着床学会総会・学術講演会, 仙台；2023年7月27～28日
- 8) 太田邦明, 高橋俊文. 婦人科がんサバイバーの診療. 第33回臨床内分泌代謝Update; 20231103-04; 横浜.
- 9) 高橋俊文. 社会から求められる胚培養士の役割-日本卵子学会の立場から-. <カレントトピックス 2 社会から求められる胚培養士の役割> 第42回日本受精着床学会総会・学術講演会, 大阪；2024年8月23日(22-23)
- 10) 白澤弘光, 岡田英孝, 沖津摂, 木村正, 木村直子, 久慈直昭, 高橋和政, 高橋俊文, 寺田幸弘, 長谷川久隆, 福永憲. 胚培養士業務全国調査から今後の課題を考える. カレントトピックス 2 CT 2-3 社会から求められる胚培養士の役割. 第42回日本受精着床学会総会・学術講演会, 大阪；2024年8月23日(22-23)
- 11) 佐藤美紀子, 高橋俊文, 川名敬, 鈴木直. 多角的視点から考える婦人科癌患者の栄養代謝 がんサバイバーの栄養と治療者の役割(シンポジウム 1 SY 1-4) 第47回 日本女性栄養・代謝学会学術集会, 岡山, 2024年8月24日(24-25)

I-2. 国内の地方会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 高橋俊文. 不妊症を生物学的・社会的に探求するー卵子凍結に潜むリスクとベネフィットー. <特別講演>. 福島医学会第489回学術研究集会, 福島; 2021年5月28日
- 2) 高橋俊文. 少子化社会における生殖医療の展開 <特別講演>. 令和6年度福島県保健衛生学会(第52回), 福島; 2024年8月30日

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

該当無し

II. 海外学会

- 1) Takahashi T, Ota K. Strict embryo-endometrial synchrony does not contribute to the successful pregnancy during vitrified-warmed embryo transfer with hormone replacement cycles. 37th Virtual Annual Meeting ESHRE, 26 June- 1 July 2021
- 2) Ogawa M, Makita K, Takamatsu K, Takahashi T. Effect of Hormone Replacement Therapy with Micronized Progesterone on the Sleep quality of Japanese Women : A Pilot Study. International Menopause Society 19th World Congress on Menopause, Melbourne Australia, 20 Oct 2024

論文

I. 英文

1. 原著

- 1) Ota K, Tsutsumi O, Mitani T, Morimoto Y, Tanaka A, Osuga Y, Takahashi T, Hosoi Y : Reproductive medical providers' behaviors, considerations, and plans for fertility treatments during the COVID-19 pandemic in Japan : A nationwide web-based survey. *Reprod Med Biol* 2021, 20 (2) : 123-132.
- 2) Ota K, Shiraishi S, Takahashi T : Relationship between temporal changes of endometrial blood flow impedance during natural and hormone replacement cycles and prediction of pregnancy during vitrified-warmed embryo transfer. *J Obstet Gynaecol Res* 2021, 47 (3) : 1052-1063.
- 3) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Sano R, Shiota M : A Suturing Method without Exposure of Barbs on the Wound Surface Using a Unidirectional Barbed Monofilament Absorbable Suture (STRATAFIX) in Laparoscopic Myomectomy : A Feasibility Study. *Gynecol Minim Invasive Ther* 2021, 10 (2) : 104-108.
- 4) Ota K, Takahashi T, Katagiri M, Mizunuma H, Yoshida H : Effects of Hatha Yoga on Endocrine Functions and Assisted Reproductive Technology Outcomes in Women with Infertility : A Retrospective Cohort Study. *J Reprod Med* 2021, 66 (3- 4) : 101-106.
- 5) Ohara M, Yoshida-Komiya H, Ono-Okutsu M, Yamaguchi-Ito A, Takahashi T, Fujimori K : Metformin reduces androgen receptor and upregulates homeobox A10 expression in uterine endometrium in women with polycystic ovary syndrome. *Reprod Biol Endocrinol* 2021, 19 (1) : 77.
- 6) Iwasawa T, Takahashi T, Maeda E, Ishiyama K, Takahashi S, Suganuma R, Matsuo K, Tachibana M, Fukuhara R, Shirasawa H, Sato W, Kumazawa Y, Terada Y : Effects of localisation of uterine adenomyosis on outcome of in vitro fertilisation/intracytoplasmic sperm injection fresh and frozen-thawed embryo transfer cycles : a multicentre retrospective cohort study. *Reprod Biol Endocrinol* 2021, 19 (1) : 84.
- 7) Ota K, Sato K, Shiraishi S, Takahashi T : Ageing impairs restoration of endometrial blood flow impedance after laparoscopic myomectomy in infertile women with uterine fibroids. *J Obstet Gynaecol* 2022, 42 (5) : 1211-1216.
- 8) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Suzuki D, Takahashi T, Go H, Maeda H, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H : Association between preconception dietary inflammatory index and neurodevelopment of offspring at 3 years of age : The Japan Environment and Children's Study. *Nutrition* 2022, 102 : 111708.
- 9) Suzuki T, Nishigori T, Obara T, Masumoto T, Mori M, Murata T, Kyojuka H, Ogata Y, Sato A, Sampei M, Takahashi T, Shinoki K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Hashimoto K, Goto A, Nishigori H, Japan E, Children's Study G : Maternal folic acid supplement use/dietary

- folate intake from preconception to early pregnancy and neurodevelopment in 2-year-old offspring : the Japan Environment and Children's Study. *Br J Nutr* 2022, 128 (12) : 2480-2489.
- 10) Ota K, Takahashi T, Mitsui J, Kuroda K, Hiraoka K, Kawai K : A case of discrepancy between three ERA tests in a woman with repeated implantation failure complicated by chronic endometritis. *BMC Pregnancy Childbirth* 2022, 22 (1) : 891.
 - 11) Mori M, Nishigori T, Ogata Y, Suzuki T, Sato A, Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Metoki H, Shinohara Y, Takahashi T, Shinoki K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Hashimoto K, Goto A, Nishigori H, Japan E, Children's Study G : Maternal prenatal psychological distress and motor/cognitive development in two-year-old offspring : The Japan Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis* 2023, 14 (3) : 389-401.
 - 12) Ogawa S, Ota K, Takahashi T, Yoshida H : Impact of Homocysteine as a Preconceptional Screening Factor for In Vitro Fertilization and Prevention of Miscarriage with Folic Acid Supplementation Following Frozen-Thawed Embryo Transfer : A Hospital-Based Retrospective Cohort Study. *Nutrients* 2023, 15 (17) : 3730.
 - 13) Ota K, Mitsui J, Katsumata S, Takayanagi Y, Nako Y, Tajima M, Komiya A, Takahashi T, Kawai K : Seasonal Serum 25 (OH) Vitamin D Level and Reproductive or Immune Markers in Reproductive-Aged Women with Infertility : A Cross-Sectional Observational Study in East Japan. *Nutrients* 2023, 15 (24) : 5059.
 - 14) Kawamura S, Ota K, Ota Y, Takahashi T, Fujiwara H, Tasaka K, Okamoto H, Morimoto Y, Saito W, Sugihara M, Matsuyama T, Koike E, Shiota M, Shimoya K : Identifying key predictors for uterine manipulator use in robotic simple hysterectomy : a retrospective cohort analysis. *Front Med (Lausanne)* 2024, 11 : 1462632.
 - 15) Yamada M, Ezoe K, Ueno S, Yoshino O, Takahashi T : Use of time-lapse technology on fertilization verification, embryo evaluation, and utilization : A national survey in Japan. *AJOG Glob Rep* 2024, 4 (4) : 100397.
 - 16) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Kawamura S, Shiota M, Shimoya K : Innovative vaginal manipulator technique vs. traditional method for vaginal fornix deployment in robotic sacrocolpopexy. *Front Surg* 2024, 11 : 1491233.
 - 17) Okoshi C, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Murata T, Isogami H, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga S, Katoh T, Fujimori K, Takahashi T : Risk of Gestational Diabetes in Women With PCOS Based on Body Mass Index : The Japan Environment and Children's Study. *J Clin Endocrinol Metab* 2025, 110 (4) : e1167-e1172.
 - 18) Asai-Sato M, Takahashi T, Ota K, Komiya H, Iwasa T, Ogishima S, Suzuki N : Attitudes toward subsequent primary cancer prevention among survivors of childhood, adolescent, and young adult (CAYA) cancer in Japan : results of a comprehensive questionnaire survey on long-term women's health after CAYA cancer. *J Gynecol Oncol* 2025, 36 (2) : e29.

2. 症例報告

- 1) Takahashi T, Murakami M, Ota K, Mizunuma H : Uterine leiomyosarcoma presenting as septic shock in a 43-year-old woman : a case report. *CEOG* 2021, 48 (1) : 203-205.
- 2) Murata T, Endo Y, Furukawa S, Ono A, Kiko Y, Soeda S, Watanabe T, Takahashi T, Fujimori K : Successful laparoscopic resection of ovarian abscess caused by *Staphylococcus aureus* in a 13-year-old girl : a case report and review of literature. *BMC Womens Health* 2021, 21 (1) : 198.
- 3) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Morimoto Y, Suzuki S-I, Sano R, Ota I, Moriya T, Shiota M : A Case of Elastography-Assisted Laparoscopic Fertility Preservation for Severe Deep Endometriosis Causing Ureteral Stenosis and Subtype II Adenomyosis. *Endocrines* 2021, 2 (3) : 348-355.
- 4) Okoshi C, Takahashi T, Ota K, Suganuma R, Fujimori K : Severe Hemoperitoneum After Oocyte Retrieval Due to Ovarian Hemorrhage Possibly Caused by Violent Cough Under General Anesthesia With Propofol and Pentazocine : A Case Report and Literature Review. *Cureus* 2021, 13 (10) : e18724.
- 5) Ueda M, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Suzuki D, Kyojuka H, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Fujimori K : Successful pregnancy and term delivery after treatment of unicornuate uterus with non-communicating rudimentary horn pregnancy with local methotrexate injection followed by laparoscopic resection : a case report and literature review. *BMC Pregnancy Childbirth* 2021, 21 (1) : 715.
- 6) Ota K, Katagiri Y, Katakura M, Mukai T, Nakaoka K, Maemura T, Takahashi T, Morita M : Trocar-site hernia following laparoscopic salpingo-oophorectomy in a middle-aged Japanese woman : an initial case report after 40 years of experience at a single center and a brief literature review. *BMC Womens Health* 2022, 22 (1) : 8.
- 7) Ota K, Katagiri Y, Katakura M, Maemura T, Takahashi T, Morita M : Porous diaphragm syndrome presenting as hemothorax secondary to hemoperitoneum after laparoscopic myomectomy : A case report and literature review. *J Obstet Gynaecol Res* 2022, 48 (4) : 1039-1045.
- 8) Fujimori M, Takahashi T, Furukawa Y, Takanashi A, Iizawa Y, Jimbo M, Soeda S, Fujimori K, Takeichi K : Synchronous bilateral primary ovarian cancer with right endometroid carcinoma and left high-grade serous carcinoma : a case report and literature review. *BMC Womens Health* 2022, 22 (1) : 103.
- 9) Shiraiwa A, Takahashi T, Okoshi C, Wada M, Ota K, Suganuma R, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Yoshida-Komiya H, Fujimori K : Successful pregnancy and delivery after a vitrified-warmed embryo transfer in a woman with Kallmann syndrome : A case report and literature review. *Fukushima J Med Sci* 2022, 68 (1) : 49-55.
- 10) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Sano R, Shiota M : Robotic-assisted Total Hysterectomy with Low Pneumoperitoneal Pressure (6 mmHg) and Use of Surgical Plume Evacuator System to Minimize Potential Airborne Particles According to the Joint Statement on Minimally Invasive Gynecologic Surgery during the COVID-19 Pandemic : A Case

- Report from Japan. *Gynecol Minim Invasive Ther* 2022, 11 (2) : 127-130.
- 11) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Morimoto Y, Suzuki S, Sano R, Shiota M : Laparoscopic Adenomyomectomy under Real-Time Intraoperative Ultrasound Elastography Guidance : A Case Series and Feasibility Study. *J Clin Med* 2022 , 11 (22) : 6707.
 - 12) Kamo N, Takahashi T, Soeda S, Jimbo M, Yoshida-Komiya H, Fujimori K : Hydrosalpinx in a premenarcheal 14-year-old girl with the proliferation of smooth muscle cells in the isthmus of the fallopian tube : A case report. *J Obstet Gynaecol Res* 2023, 49 (2) : 769-774.
 - 13) Ota K, Takahashi T, Ajiro Y, Nohara S, Shuno Y, Kamiyama H, Kobayashi T : Unilateral Ovarian Hypoplasia with Ipsilateral Fallopian Tube Hypoplasia. *J Minim Invasive Gynecol* 2023, 30 (9) : 685-686.
 - 14) Okoshi C, Takahashi T, Fukatsu M, Suganuma R, Ikezoe T, Fujimori K : A case of delayed postoperative bleeding after excision of endometrial polyp using resectoscope in an infertile woman with von Willebrand disease : a case report and literature review. *Fukushima J Med Sci* 2023, 69 (3) : 197-204.
 - 15) Ota K, Asai S, Takagi S, Kikuchi M, Miyazaki K, Saiki N, Tajima H, Nagase M, Asada H, Ota Y, Takahashi T : Diagnosis and resolution of an enigmatic calcified pelvic mass post-hysterectomy : A case report. *Int J Gynaecol Obstet* 2024, 165 (3) : 1297-1299.
 - 16) Ota K, Asanuma Y, Hirasawa H, Ohta H, Takahashi T : Minodronate for severe multiple vertebral fractures due to pregnancy- and lactation-associated osteoporosis : a case report and literature review. *Ther Adv Musculoskelet Dis* 2024, 16 : 1759720X241259897.
 - 17) Tasaka K, Ota Y, Ota K, Takahashi T, Shimoya K : A case of a blind-ending right ureter first identified intraoperatively during total laparoscopic hysterectomy for uterine adenomyosis and fibroids in a woman with severe ipsilateral kidney hypoplasia. *J Obstet Gynaecol Res* 2024, 50 (8) : 1415-1419.
 - 18) Saito W, Ota K, Takahashi T, Sugihara M, Matsuyama T, Ota Y, Shimoya K : Acute Sheehan syndrome following massive postpartum hemorrhage due to vulvar hematoma. *AJOG Glob Rep* 2024, 4 (4) : 100399.
 - 19) Ota Y, Ota K, Takahashi T, Horikawa N, Kuroda R, Okamoto H, Tanaka Y, Kusumoto T, Oda T, Matsuyama T, Miyake T, Honda T, Shimoya K : Case Report : The first case of successful pregnancy and live birth following laparoscopic resection of adenomyosis under real-time intraoperative ultrasound elastography guidance. *Front Med (Lausanne)* 2024, 11 : 1457611.
 - 20) Sugihara M, Ota K, Takahashi T, Tasaka K, Okamoto H, Morimoto Y, Kawamura S, Saito W, Tsubouchi H, Ota Y, Shimoya K : Conservative Management of Placenta Percreta With Perforation in an Infertile Lupus Patient Following Embryo Transfer : A Report of a Rare Case. *Cureus* 2024, 16 (11) : e74774.
 - 21) Katsumata S, Ota K, Takahashi T, Mitsui J, Uchida N, Hiraoka K, Komiya A, Kawai K : Successful pregnancy and live birth despite discontinuation of hormone replacement therapy at 3 weeks and 5 days of gestation following vitrified-warmed embryo transfer under a hormone replacement therapy cycle : a case report and literature review. *BMC Pregnancy Childbirth* 2024, 24 (1) : 831.

3. 総説

- 1) Watanabe T, Soeda S, Endo Y, Okabe C, Sato T, Kamo N, Ueda M, Kojima M, Furukawa S, Nishigori H, Takahashi T, Fujimori K : Rare Hereditary Gynecological Cancer Syndromes. Int J Mol Sci 2022, 23 (3) : 1563.
- 2) Yamada M, Ishikawa T, Iwasa T, Oishi H, Osuka S, Oka K, Ono S, Ono M, Orisaka M, Kanasaki H, Kawano Y, Kawamura K, Kishi H, Kimura F, Kuroda S, Kuwahara A, Kobayashi H, Komiya A, Saito H, Sato K, Sato S, Shiraishi K, Shirasawa H, Suzuki T, Takai Y, Takae S, Takahashi T, Takiuchi T, Tachibana M, Tamura I, Tamura H, Jwa SC, Baba T, Harada M, Hirata T, Fukui A, Fukuda Y, Fukuhara S, Maruyama T, Yumura Y, Yoshino O, Hirota Y, Tsujimura A, Kuji N, Osuga Y : Guidelines for Reproductive Medicine in Japan. Reprod Med Biol 2022, 21 (1) : e12483.
- 3) Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T : Guideline for gynecological practice in Japan : Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J Obstet Gynaecol Res 2024, 50 (7) : 1073-1094. doi : 10.1111/jog.15950.

4. 著書

該当無し

II. 和文

1. 原著

- 1) 高橋俊文. オンコファーマティリティとオンコヘルスケア 小児・AYAがんサバイバー女性のヘルスケア(オンコウィメンズヘルス). 日本女性医学学会雑誌. 2021 ; 28 (4) : 643-646.
- 2) 高橋俊文. 不妊症を生物学的・社会的に探求する 卵子凍結に潜むリスクとベネフィット. 福島医学雑誌. 2022 ; 71 (2) : 95-96.
- 3) 高橋俊文. 【胚培養士の教育と育成】管理胚培養士のススメ. Journal of Mammalian Ova Research. 2023 ; 40 (1) : 3-7.
- 4) 高橋俊文. 生殖医療における研究発表の基本. 日本IVF学会誌. 2023 ; 26 (2) : 85-90.
- 5) 太田邦明, 野原茂男, 秀野泰隆, 神山博彦, 武市和之, 高橋俊文, 杉山政則. 外科医との混成チームで行う婦人科腹腔鏡手術の実現の可能性を考える. 日本内視鏡外科学会雑誌. 2024 ; 29 (1) : 81-86.
- 6) 木村直子, 高橋俊文, 久慈直昭, 柏崎直巳, 寺田幸弘. 我が国における生殖補助医療胚培養士の現状 2022 一般社団法人日本卵子学会生殖補助医療管理胚培養士および胚培養士資格制度による審査結果の解析. Journal of Mammalian Ova Research. 2024 ; 41 (1) : 15-26.

2. 症例報告

- 1) 矢澤里穂, 高橋俊文, 古川結香, 高梨子篤浩, 飯澤禎之, 武市和之. 初回治療から6年後に肺転移にて再発した子宮頸部中腎管腺癌の一例. 福島医学雑誌. 2023; 73 (2): 37-44.

3. 総説

- 1) 高橋俊文, 太田邦明. 【産婦人科患者説明ガイド-納得・満足を引き出すために】不妊・不育 体外受精・胚移植を行うにあたっての患者説明. 臨床婦人科産科. 2021; 75 (4): 163-168.
- 2) 高橋俊文, 太田邦明. 【産婦人科患者説明ガイド-納得・満足を引き出すために】不妊・不育 (Q1) 不妊治療にはどんな副作用がありますか? 臨床婦人科産科. 2021; 75 (4): 193-195.
- 3) 高橋俊文, 鈴木大輔, 太田邦明. 【女性のライフステージごとのホルモン療法-この1冊ですべてを網羅する】月経異常・不妊 若年者の月経異常とPCOS. 臨床婦人科産科. 2021; 75 (3): 326-331.
- 4) 高橋俊文. 【OC・LEPガイドライン2020年度版を読み解く】処方前の検査は? 産科と婦人科. 2021; 88 (6): 667-670.
- 5) 高橋俊文, 鈴木大輔. 【卵巣Up to Date】閉経期以降の卵巣機能. 産科と婦人科. 2021; 88 (8): 924-929.
- 6) 太田邦明, 堤治, 高橋俊文, 森田峰人. 【卵巣Up to Date】COVID-19と生殖医療. 産科と婦人科. 2021; 88 (8): 985-995.
- 7) 山口明子, 高橋俊文, 小宮ひろみ. 【月経異常に対するホルモン療法を極める!-最新エビデンスと処方の実例】月経困難症・過多月経 LEP製剤 OC・LEP製剤の黄体ホルモンによる違い. 臨床婦人科産科. 2021; 75 (11): 1038-1043.
- 8) 高橋俊文, 太田邦明, 神保正利. 【月経異常に対するホルモン療法を極める!-最新エビデンスと処方の実例】無月経 ホルムストローム療法. 臨床婦人科産科. 2021; 75 (11): 1028-1032.
- 9) 太田邦明, 高橋俊文, 森田峰人. 【周産期医学必修知識(第9版)】葉酸摂取. 周産期医学. 2021; 51 (増刊): 16-20.
- 10) 高橋俊文. pre-conception care、受胎前に我々はどうサポートすべきか 不妊治療を受ける前の心構え 患者と医療者に知っておいて欲しいこと. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2022; 42 (4): 415-418.
- 11) 太田邦明, 高橋俊文, 森田峰人. 【婦人科腹腔鏡下手術TLH/LM/LCの基本とコツ】腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術(LC)、腹腔鏡補助下卵巣嚢腫摘出術(LAC) 腹腔鏡下卵巣奇形腫摘出術の基本とコツ. 産科と婦人科. 2022; 89 (4): 422-428.
- 12) 高橋俊文, 太田邦明, 神保正利. 【最新の不妊診療がわかる!-生殖補助医療を中心とした新たな治療体系】(第1章) 生殖補助医療の適応と意義 どんな患者さんが体外受精・顕微授精を受けるのか 生殖補助医療の成功率を規定する因子. 臨床婦人科産科. 2022; 76 (4): 14-17.
- 13) 高橋俊文. 【子宮内膜症の最新知識-この1冊で重要ポイントを網羅する】不妊を主訴とする場合 ARTが先か手術が先か, 子宮腺筋症の場合は? 子宮内膜症性不妊症の治療戦略 ガイドラインとリアルワールドのギャップを考える. 臨床婦人科産科. 2022; 76 (7): 637-642.
- 14) 高橋俊文. 【不妊とくすりの現在 ここが変わった!治療法・治療薬から保険制度まで】女性不妊における薬物治療の実践 アロマターゼ阻害薬(レトロゾール). 薬局. 2022; 73 (10): 2528-2534.
- 15) 高橋俊文, 三浦秀樹, 大越千弘, 山口明子, 神保正利, 菅沼亮太. 【多嚢胞性卵巣症候群の最新知見-生

- 涯にわたる健康管理を見据えて-】多嚢胞性卵巣症候群と若年者の月経異常. 産婦人科の実際. 2022 ; 71 (9) : 961-965.
- 16) 高橋俊文, 大越千弘, 神保正利. 【女性医学から読み解くメタボリック症候群-専門医のための必須知識】疾患・分野別編 PCOSとメタボリック症候群. 臨床婦人科産科. 2022 ; 76 (10) : 987-992.
- 17) 高橋俊文. 【不妊と薬の知識 患者に寄り添う薬剤師になる!】妊娠の基礎知識と不妊症の治療戦略. 調剤と情報. 2022 ; 28 (13) : 2204-2209.
- 18) 高橋俊文. 【生殖医療への貢献】不妊症・不育症の原因と分類 現代社会における生殖医療の現状. 臨床検査. 2023 ; 67 (1) : 44-48.
- 19) 高橋俊文. 今月の臨床-外来担当医として知っておきたい-婦人科腫瘍の卵巣機能・妊孕性温存療法 卵巣腫瘍編 良性卵巣嚢腫摘出術が卵巣機能に及ぼす影響. 臨床婦人科産科. 2024 ; 78 (9) : 810-814.
- 20) 高橋俊文. 【生殖医療の最新潮流とその一歩先】最新潮流 卵巣予備能から着床まで 配偶子と授精・胚発育 ノンメディカル卵子凍結. 臨床婦人科産科. 2024 ; 78 (11) : 990-996.
- 21) 佐藤美紀子, 高橋俊文, 鈴木直. がんサバイバーの栄養・生活習慣と治療者の役割. 日本女性栄養・代謝学会誌 2024 ; 30: 7-14

4. 著書

- 1) 高橋俊文(共著). 生殖医療ガイドライン. 日本生殖医学会編.2021, (全170)
- 2) 高橋俊文(共著). 受精とその障害. 生殖医療フロントラインMOOK 2.柴原浩章, 柳田薫編, 中外医学社. 2022, (全168)
- 3) 高橋俊文(共著). 生殖医療ポケットマニュアル第2版. 吉村泰典監, 大須賀稜, 京野廣一, 久慈直昭, 辰巳賢一, 市川智彦編. 医学書院. 2022, (全520)
- 4) 高橋俊文(共著). 作成委員, 産婦人科診療ガイドライン外来編 2023.日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編.2023
- 5) 高橋俊文(共著). 生殖医療の必修知識 2023.日本生殖医学会編.2023, (全666)
- 6) 高橋俊文(共著). 無月経と排卵障害. 今日の治療指針 2024年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 医学書院. 2024, (全2224)
- 7) 高橋俊文. 総論 がんサバイバーのヘルスケア管理について. 日本癌治療学会編. 小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024年12月改訂 第2版. 2024 (全576)
- 8) 高橋俊文(共著). 異常子宮出血と閉経後出血. 今日の治療指針 2025年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 医学書院. 2025, (全2136)
- 9) 高橋俊文(共著). 不妊治療中には,どんな食事をしたらよいですか? エビデンスで答える!女性診療で必要な栄養素・サプリメントの知識 90. 岩佐武, 黒田恵司, 小谷友美, 太田邦明編. メジカルビュー社. 2025, 205-255 (全324)

特 許

- 1) 出願人：公立大学法人福島県立医科大学，株式会社メディクローム
発明者／考案者／創作者：渡辺慎哉，渡邊尚文，藤森敬也，高橋俊文，今井順一，松倉進
産業財産権名：子宮内膜症を鑑別する方法、鑑別用抗原タンパク質、抗体検査剤、および、抗体検査キット
公開番号：特開2023-106701（P2023-106701A）
公開年月：2023年8月

公的助成金獲得

1. 研究代表者

- 1) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2019年4月1日～2023年3月31日(課題番号19K10486)「産婦人科診療における地域格差の定量的検討—医療ビッグデータとGISを用いた解析」(研究代表者：高橋俊文、研究分担者：太田邦明)
- 2) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2024年4月1日～2027年3月31日(課題番号24K13368)「産婦人科診療の地域格差解消に向けた基盤データの構築—リアルワールドデータ解析」(研究代表者：高橋俊文、研究分担者：菅沼亮太、神保正利)

2. 研究分担者

- 1) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2017年4月1日～2023年3月31日(課題番号17K11243)「卵細胞質内精子注入法に特化した精子選択法・精子評価法の確立と治療前診断への応用」(研究代表者：菅沼亮太、研究分担者：高橋俊文)
- 2) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2018年4月1日～2022年3月31日(課題番号18K09976)「ビッグデータ解析を用いた不妊患者における臨床決断支援システムの開発」(研究代表者：鈴木大輔、研究分担者：高橋俊文)
- 3) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2020年4月1日～2024年3月31日(課題番号19K10486)「災害時の産科医療教育プログラムと妊産婦行動支援のための情報ツールの開発」(研究代表者：神保正利、研究分担者：高橋俊文、太田邦明)
- 4) 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん対策推進総合研究 2019年4月1日～2022年3月31日(課題番号19EA1015)「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して」(研究代表者：鈴木直、研究分担者：高橋俊文、他22名)
- 5) 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 成育疾患克服等次世代育成基盤研究 2020年4月1日～2021年3月31日(課題番号H30-健やか-一般-006)「配偶子凍結および胚凍結を利用する生殖医療技術の安全性と情報提供体制の拡充に関する研究」(研究代表者：苛原稔、研究分担者：高橋俊文、他4名)
- 6) 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん対策推進総合研究 2020年4月1日～2022年3月31日(課題番号：20EA1004)「小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わ

- る心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して」(研究代表者：鈴木直、研究分担者：高橋俊文、他49名)
- 7) こども家庭科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究 2021年4月1日～2024年3月31日(課題番号：21DA1003)「標準的な生殖医療の知識啓発と情報提供のためのシステム構築に関する研究」(研究代表者：苛原稔、研究分担者：高橋俊文、他6名)
- 8) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2021年4月1日～2025年3月31日(課題番号21K09498)「栄養環境改善(プレコンセプションケア)による妊孕性向上の分子機構の解明」(研究代表者：太田邦明、研究分担者：高橋俊文)
- 9) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2023年4月1日～2026年3月31日(課題番号23K10181)「映像メディアによる行動異常を予防する、母子手帳交付時から始める看護支援」(研究代表者：横山浩之、研究分担者：富澤弥生、阿久津和子、高橋香子、高橋俊文)
- 10) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2024年4月1日～2027年3月31日(課題番号24K13956)「災害時の産科医療支援のための医療従事者向け教育プログラムと自己評価ツールの開発」(研究代表者：神保正利、研究分担者：高橋俊文)
- 11) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2025年4月1日～2029年3月31日(課題番号25K12711)「術中超音波エラストグラフィー併用腺筋症核出術の妊孕性の空間的改善効果の検証」(研究代表者：太田啓明、研究分担者：高橋俊文、下屋浩一郎、太田邦明)
- 12) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2025年4月1日～2030年3月31日(課題番号25K14299)「労働生産性の観点からみた更年期障害の治療個別化戦略」(研究代表者：小川真里子、研究分担者：高橋俊文)

横山 浩之 (2021 年4月～)

講演

I. 国内学会

I-1. 国内の全国学会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 横山浩之. 睡眠習慣と子ども虐待ー眠りの重要性と映像メディアとの付き合い方ー 第13回日本子ども虐待医学会学術集会(招待講演)、宮城県加美町; 2022年7月22日～7月24日

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

- 1) 横山浩之. 身近な子ども虐待と行動異常～発達障害と勘違いされる子ども～(教育講演1)、第12回日本子ども虐待医学会学術集会、Web(京都); 2021年7月4日
- 2) 横山浩之. 全ての子どもにやさしい保育を考える・・・なぜ特別な支援を必要とする子どもを集団で育むのか(教育講演3)、第32回全国病児保育研究大会in ちば、千葉; 2022年7月17日(17-18)

I-2. 国内の地方会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 横山浩之. 子どもの行動異常と睡眠・・・神経発達症の診断をふまえて 第189回三重県小児科医 会例会(招待講演) 三重; 2023年
- 2) 横山浩之. 不適切な子育てがもたらす影響と対策・・・幼児期だからこそできること 2024年度八戸市保育連合会(招待講演) 八戸; 2025年

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

該当無し

3. その他

- 1) 横山浩之. 日本小児神経学会東北地方会(第31回) 日本小児神経学会東北地方会運営委員長, 2025年11月29日(土)

II. 海外学会

- 1) 第13回アジアオセアニアてんかん学会、Web, (2021年6/10～6/13)

論文

I. 英文

1. 原著

- 1) Haginoya K, Sekiguchi F, Munakata M, Yokoyama H, Hino-Fukuyo N, Uematsu M, Jin K, Nagamatsu K, Ando T, Miyake N, Matsumoto N, Kure S. A patient with a 6q22.1 deletion and a phenotype of nonprogressive early-onset generalized epilepsy with tremor. *Epilepsy & Behavior Reports*. 2021; 15 : 100405.
- 2) Ishii H, Otomo K, Chang CP, Yamasaki M, Watanabe M, Yokoyama H, Nemoto T. All-synchronized picosecond pulses and time-gated detection improve the spatial resolution of two-photon STED microscopy in brain tissue imaging. *PLoS One*. 2023;18 (8) : e0290550.
- 3) Akutsu K, Goto A, Abo-Rass F, Yokoyama H. Evaluating the Effectiveness of Parent Training Pamphlets : An Intervention Study Among Parents at Child Health Checkups. *J Prim Care Community Health*. 2025;16 : 21501319251317340.

2. 症例報告

該当無し

3. 総説

該当無し

4. 著書

該当無し

II. 和文

1. 原著

- 1) 横山浩之. My オピニオン : 子育てを取り巻く状況を見つめ直す チャイルドヘルス 2022 ; 25 (6) : 401
- 2) 横山浩之. 神経発達症の診療で、教育との連携から学んだこと. 脳と発達 2024 ; 56 (1) : 2
- 3) 阿久津和子, 後藤あや, 荒井有希, 横山浩之. 子どもの行動観察調査から考えた育てにくさの検討、チャイルドヘルス 2024 ; 27 (4) : 314-319

2. 症例報告

該当なし

3. 総説

- 1) 横山浩之. 全ての子どもにやさしい保育を考える. (総説③) 病児保育研究 2023 ; 14:13-17
- 2) 横山浩之. 子どもの行動異常と睡眠 神経発達症の診断をふまえて. 三重県小児科医会会報 2023 ; (122) 15-25

4. 著書

- 1) 植松有里佳、熊谷智子、後藤梓、佐藤しおり、佐藤寛記、白土晃、鈴木綾乃、土谷真央、奈良千恵子、洞口真紀、横山浩之. 宮城県 メディアとの正しい付き合い方マニュアル 豊かな人生を送れる子どもにするために私たちができること、宮城県保健福祉部精神保健推進室、2022, (全30)
- 2) 横山浩之. 子どもの心理発達の臨床 定型発達からわかる！ アタッチメント症(愛着障害), 不登校・不適應の支援と対応、株式会社診断と治療社、2025, (全160)

公的助成金獲得

1. 研究代表者

- 1) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2018年4月1日～2023年3月31日(課題番号23K10181)「発達障害や虐待による行動異常の悪化を予防する、切れ目のない支援を支える手法の開発」(研究代表者：横山浩之、研究分担者：小林淳子、富澤弥生)
- 2) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2023年4月1日～2026年3月31日(課題番号23K10181)「映像メディアによる行動異常を予防する、母子手帳交付時から始める看護支援」(研究代表者：横山浩之、研究分担者：富澤弥生、阿久津和子、高橋香子、高橋俊文)

2. 研究分担者

該当無し

西郡 秀和 (2021年4月～)

講演

I. 国内学会

I-1. 国内の全国学会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

該当無し

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

- 1) 西郡秀和. 精神疾患と妊娠・児の発達(生涯研修プログラム4) 第73回日本産科婦人科学会学術講演会; 2021年4月23日

I-2. 国内の地方会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 西郡秀和. 周産期メンタルヘルスケア体制の構築と課題(特別講演). 第37回奈良県母性衛生学会学術講演会; 2023年7月29日
- 2) 西郡秀和. わが国の出生コホート研究から得られた知見と課題. 第3回大阪女性ヘルスケア研究会, 大阪; 2023年11月11日
- 3) 西郡秀和. 父親の周産期メンタルヘルス支援の必要性 ～育児参加推進に向けた課題～(特別講演). 第42回青森県 県南周産期セミナー 主催 青森県 八戸市医師会; 2024年2月10日

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

該当無し

3. その他

- 1) 西郡秀和. (学会大会長) 第11回日本DOHaD学会学術集会、福島、2023年8月4日～8月5日

II. 海外学会

該当無し

論文

I. 英文

1. 原著

- 1) Murata T, Kyojuka H, Endo Y, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Preterm Deliveries in Women with Uterine Myomas : The Japan Environment and Children's Study. *Int J Environ Res Public Health*. 2021;18 (5) : 2246.
- 2) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K. Effect of Preconception Selenium Intake on the Risk for Gestational Diabetes : The Japan Environment and Children's Study. *Antioxidants (Basel)* . 2021;10 (4) : 568.
- 3) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Morokuma S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Maternal sleep duration and neonatal birth weight : the Japan Environment and Children's Study. *BMC Pregnancy Childbirth*. 2021;21 (1) : 295.
- 4) Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries : The Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep*. 2021;11 (1) : 8906.
- 5) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Endo Y, Yamaguchi A, Yasuda S, Kanno A, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Immunoglobulin E levels and pregnancy-induced hypertension : Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep*. 2021;11 (1) : 8664.
- 6) Kikuchi S, Kobayashi N, Watanabe Z, Ono C, Takeda T, Nishigori H, Yaegashi N, Arima T, Nakai K, Tomita H. The delivery of a placenta/fetus with high gonadal steroid production contributes to postpartum depressive symptoms. *Depress Anxiety*. 2021;38 (4) : 422-430.
- 7) Kyojuka H, Murata T, Fukusda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Endo Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Teenage pregnancy as a risk factor for placental abruption : Findings from the prospective Japan environment and children's study. *PLoS One*. 2021;16 (5) : e0251428.
- 8) Kyojuka H, Nishigori H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Prepregnancy antiinflammatory diet in pregnant women with endometriosis : The Japan Environment and Children's Study. *Nutrition*. 2021; 85 : 111129.

- 9) Murata T, Kyojuka H, Yasuda S, Fukuda T, Yamaguchi A, Maeda H, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Association between maternal ritodrine hydrochloride administration during pregnancy and childhood wheezing up to three years of age : The Japan environment and children's study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2021;32 (7) : 1455-1463.
- 10) Kyojuka H, Yasuda S, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Adverse obstetric outcomes in early-diagnosed gestational diabetes mellitus : The Japan Environment and Children's Study. *J Diabetes Investig.* 2021;12 (11) : 2071-2079.
- 11) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels and small-for-gestational age infants : a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study. *BMJ Open.* 2021;11 (12) : e054156.
- 12) Kanno A, Kyojuka H, Murata T, Isogami H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Suzuki D, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Age at menarche and risk of adverse obstetric outcomes during the first childbirth in Japan : The Japan Environment and Children's Study. *J Obstet Gynaecol Res.* 2022;48 (1) : 103-112.
- 13) Murata T, Endo Y, Fukuda T, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association of preconception dysmenorrhea with obstetric complications : the Japan Environment and Children's Study. *BMC Pregnancy Childbirth.* 2022;22 (1) : 125.
- 14) Ishikawa T, Obara T, Akazawa M, Noda A, Oyanagi G, Morishita K, Miyakoda K, Nishigori H, Kawame H, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N. Risk of major congenital malformations associated with first-trimester exposure to propulsives : A health administrative database study in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf.* 2022;31 (2) : 196-205.
- 15) Hirai H, Okamoto S, Masuzaki H, Murata T, Ogata Y, Sato A, Horiuchi S, Shinohara R, Shinoki K, Nishigori H, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Yamagata Z, Shimabukuro M; JECS Group. Maternal Urinary Cotinine Concentrations During Pregnancy Predict Infant BMI Trajectory After Birth : Analysis of 89617 Mother-Infant Pairs in the Japan Environment and Children's Study. *Front Endocrinol (Lausanne)* . 2022; 13 : 850784.
- 16) Tajima K, Ishikawa T, Matsuzaki F, Noda A, Morishita K, Inoue R, Iwama N, Nishigori H, Sugawara J, Saito M, Obara T, Mano N. Validity of Administrative Data for Identifying Birth-Related Outcomes with the End Date of Pregnancy in a Japanese University Hospital. *Int J Environ Res Public Health.* 2022;19 (8) : 4864.
- 17) Murata T, Kyojuka H, Yasuda S, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Jimbo M, Nishigori

- H, Fujimori K. Effects of acute tocolysis using ritodrine hydrochloride on foetal heart rate patterns in intrauterine foetal resuscitation : a retrospective, single-centre observational study. *J Obstet Gynaecol.* 2022;42 (4) : 563-568.
- 18) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Yasuda S, Suzuki D, Kanno A, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study JECS Group. Preconception dietary inflammatory index and hypertension disorders of pregnancy : The Japan environment and children's study. *Pregnancy Hypertens.* 2022; 28 : 114-120.
 - 19) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Imaizumi K, Yamaguchi A, Yasuda S, Suzuki D, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Preconception vitamin D intake and obstetric outcomes in women using assisted reproductive technology : the Japan Environment and Children's Study. *BMC Pregnancy Childbirth.* 2022;22 (1) : 542.
 - 20) Nishigori T, Obara T, Metoki H, Sakurai K, Mori M, Suzuki T, Ishikuro M, Tatsuta N, Saito M, Sugawara J, Arima T, Nakai K, Kuriyama S, Yaegashi N, Nishigori H. Validation of the Mother-to-Infant Bonding Scale for Infant Maltreatment by Mothers at One Month Postpartum : An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study. *JMA J.* 2022;5 (3) : 366-369.
 - 21) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Imaizumi K, Isogami H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Meconium-stained amniotic fluid during labor may be a protective factor for the offspring's childhood wheezing up to 3 years of age : the Japan Environment and Children's Study. *Eur J Pediatr.* 2022;181 (8) : 3153-3162.
 - 22) Tajima K, Ishikawa T, Noda A, Matsuzaki F, Morishita K, Inoue R, Iwama N, Nishigori H, Sugawara J, Saito M, Obara T, Mano N. Development and validation of claims-based algorithms to identify pregnancy based on data from a university hospital in Japan. *Curr Med Res Opin.* 2022;38 (9) : 1651-1654.
 - 23) Kyojuka H, Murata T, Isogami H, Imaizumi K, Fukuda T, Yamaguchi A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K, The Japan Environment And Children's Study Jecs Group. Preconception Dietary Inflammatory Index and Risk of Gestational Diabetes Mellitus Based on Maternal Body Mass Index : Findings from a Japanese Birth Cohort Study. *Nutrients.* 2022;14 (19) : 4100.
 - 24) Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Suzuki D, Takahashi T, Go H, Maeda H, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H. Association between preconception dietary inflammatory index and neurodevelopment of offspring at 3 years of age : The Japan Environment and Children's Study. *Nutrition.* 2022; 102 : 111708.
 - 25) Yasuda S, Kyojuka H, Endo Y, Kanno A, Murata T, Fukusda T, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study JECS Group. Association of Chlamydia trachomatis infection

- with pregnancy outcomes among Japanese pregnant women : The Japan environment and children's study. *PLoS One*. 2022;17 (11) : e0275573
- 26) Mashiyama F, Hashimoto K, Norito S, Okabe H, Sato A, Kume Y, Maeda R, Sato M, Sato M, Kyojuka H, Fujimori K, Nishigori H, Shinoki K, Yasumura S, Sakuma H, Hosoya M. Neutralizing and Epitope-Specific Antibodies against Respiratory Syncytial Virus in Maternal and Cord Blood Paired Samples. *Viruses*. 2022;14 (12) : 2702.
 - 27) Murata T, Yasuda S, Imaizumi K, Isogami H, Fukuda T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Association of labour duration in spontaneous deliveries with low neonatal Apgar scores and foetal acidosis : the Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep*. 2022;12 (1) : 21519.
 - 28) Suzuki T, Nishigori T, Obara T, Masumoto T, Mori M, Murata T, Kyojuka H, Ogata Y, Sato A, Sampei M, Takahashi T, Shinoki K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Hashimoto K, Goto A, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study Group. Maternal folic acid supplement use/dietary folate intake from preconception to early pregnancy and neurodevelopment in 2-year-old offspring : the Japan Environment and Children's Study. *Br J Nutr*. 2022;128(12) : 2480-2489.
 - 29) Nishigori H, Obara T, Nishigori T, Ishikuro M, Tatsuta N, Sakurai K, Saito M, Sugawara J, Arima T, Nakai K, Mano N, Metoki H, Kuriyama S, Yaegashi N; Japan Environment and Children's Study Group. Prenatal folic acid supplementation and autism spectrum disorder in 3-year-old offspring : the Japan environment and children's study. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2022;35 (25) : 8919-8928.
 - 30) Go H, Hashimoto K, Kyojuka H, Maeda H, Nishigori H, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Maternal hemoglobin levels and neonatal outcomes : the Japan Environment and Children's Study. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2022;35 (26) : 10472-10480.
 - 31) Itakura A, Satoh S, Aoki S, Fukushima K, Hasegawa J, Hyodo H, Kamei Y, Kondoh E, Makino S, Matsuoaka R, Morikawa M, Nagamatsu T, Nakata M, Naruse K, Nishigori H, Nishiguchi T, Obata-Yasuoka M, Ohno Y, Oura K, Shimoya K, Shiozaki A, Suzuki S, Tanaka K, Yoshida S, Kudo Y, Maeda T, Shozu M. Guidelines for obstetrical practice in Japan : Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2020 edition. *J Obstet Gynaecol Res*. 2023;49 (1) : 5-53.
 - 32) Nishigori H, Fujimori K, Hosoya M, Nishigori T, Murata T, Kyojuka H, Ogata Y, Sato A, Shinoki K, Yasumura S, Hashimoto K; Japan Environment and Children's Study Group. Congenital Anomalies in Infants in Fukushima from 2011 to 2014 : The Japan Environment and Children's Study. *JMA J*. 2023;6 (1) : 36-47.
 - 33) Nishigori T, Hashimoto K, Mori M, Suzuki T, Watanabe M, Imaizumi K, Murata T, Kyojuka H, Ogata Y, Sato A, Shinoki K, Yasumura S, Fujimori K, Nishigori H, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study Group. Association between maternal prenatal psychological distress and autism spectrum disorder among 3-year-old children : The Japan

- Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis.* 2023;14 (1) : 70-76.
- 34) Omoto T, Kyojuka H, Murata T, Imaizumi K, Yamaguchi A, Fukuda T, Isogami H, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Influence of preconception carbohydrate intake on hypertensive disorders of pregnancy : The Japan Environment and Children's Study. *J Obstet Gynaecol Res.* 2023;49 (2) : 577-586.
 - 35) Okabe H, Hashimoto K, Yamada M, Ono T, Yaginuma K, Kume Y, Chishiki M, Sato A, Ogata Y, Imaizumi K, Murata T, Kyojuka H, Shinoki K, Yasumura S, Nishigori H, Fujimori K, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) . Associations between fetal or infancy pet exposure and food allergies : The Japan Environment and Children's Study. *PLoS One.* 2023;18 (3) : e0282725.
 - 36) Ishikawa T, Nishigori H, Akazawa M, Miyakoda K, Noda A, Ishikuro M, Metoki H, Iwama N, Saito M, Sugawara J, Kawame H, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N, Obara T. Risk of major congenital malformations associated with first-trimester antihypertensives, including amlodipine and methyldopa : A large claims database study 2010-2019. *Pregnancy Hypertens.* 2023; 31 : 73-83.
 - 37) Tanaka K, Nishigori H, Watanabe Z, Tanoue K, Iwama N, Satoh M, Murakami T, Hoshiai T, Saito M, Mizuno S, Sakurai K, Ishikuro M, Obara T, Tatsuta N, Fujiwara I, Kuriyama S, Arima T, Nakai K, Yaegashi N, Metoki H; Japan Environment and Children's Study Group. Secondhand smoke exposure is associated with the risk of hypertensive disorders of pregnancy : the Japan Environment and Children's Study. *Hypertens Res.* 2023 ;46 (4) : 834-844.
 - 38) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Imaizumi K, Isogami H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Meconium-stained amniotic fluid and offspring allergies : The Japan Environment and Children's Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2023;34 (5) : e13956.
 - 39) Go H, Hashimoto K, Maeda H, Ogasawara K, Kyojuka H, Murata T, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Nishigori H, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M. Maternal triglyceride levels and neonatal outcomes : The Japan Environment and Children's Study. *J Clin Lipidol.* 2023;17 (3) : 356-366.
 - 40) Nishigori H, Nishigori T, Obara T, Suzuki T, Mori M, Imaizumi K, Murata T, Kyojuka H, Ogata Y, Sato A, Shinoki K, Yasumura S, Hosoya M, Hashimoto K, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Prenatal folic acid supplement/dietary folate and cognitive development in 4-year-old offspring from the Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep.* 2023;13 (1) : 9541.
 - 41) Murata T, Yasuda S, Kyojuka H, Imaizumi K, Isogami H, Fukuda T, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study Group. Association between labor duration in singleton spontaneous vaginal deliveries and offspring neurodevelopment : The Japan Environment

- and Children's Study. *Int J Gynaecol Obstet.* 2023;161 (3) : 1097-1101.
- 42) Mori M, Nishigori T, Ogata Y, Suzuki T, Sato A, Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Metoki H, Shinohara Y, Takahashi T, Shinoki K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Hashimoto K, Goto A, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study Group. Maternal prenatal psychological distress and motor/cognitive development in two-year-old offspring : The Japan Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis.* 2023;14 (3) : 389-401.
- 43) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; and the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association of Maternal Asthma and Total Serum Immunoglobulin E levels with Obstetric Complications : The Japan Environment and Children's Study. *Matern Child Health J.* 2023;27 (7) : 1229-1237.
- 44) Murata T, Isogami H, Imaizumi K, Fukuda T, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between gestational age at threatened preterm birth diagnosis and incidence of preterm birth : the Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep.* 2023;13 (1) : 12839.
- 45) Go H, Hashimoto K, Maeda H, Ogasawara K, Kume Y, Murata T, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Nishigori H, Ikeda-Araki A, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Cord blood triglyceride and total cholesterol in preterm and term neonates : reference values and associated factors from the Japan Environment and Children's Study. *Eur J Pediatr.* 2023;182 (10) : 4547-4556.
- 46) Nagata A, Masumoto T, Nishigori H, Nakagawa T, Otani S, Kurozawa Y; Japan Environment and Children's Study Group. Neurodevelopmental Outcomes Among Offspring Exposed to Corticosteroid and B2-Adrenergic Agonists In Utero. *JAMA Netw Open.* 2023;6 (10) : e2339347.
- 47) Hashimoto K, Maeda H, Iwasa H, Kyojuka H, Maeda R, Kume Y, Ono T, Chishiki M, Sato A, Ogata Y, Murata T, Fujimori K, Shinoki K, Nishigori H, Yasumura S, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Tobacco Exposure During Pregnancy and Infections in Infants up to 1 Year of Age : The Japan Environment and Children's Study. *J Epidemiol.* 2023;33 (10) : 489-497.
- 48) Suzuki T, Nishigori T, Obara T, Mori M, Sakurai K, Ishikuro M, Hamada H, Saito M, Sugawara J, Arima T, Metoki H, Kuriyama S, Goto A, Yaegashi N, Nishigori H. Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum : an adjunct study of the Japan environment and children's study. *Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol.* 2023;58 (11) : 1603-1624.
- 49) Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Imaizumi K, Isogami H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Maternal magnesium intake and childhood wheezing in offspring at 3 years of age : the Japan Environment and Children's Study. *Br J Nutr.* 2023;130 (11) : 1973-1981.

- 50) Nishigori H, Nishigori T, Suzuki T, Mori M, Yamada M, Isogami H, Murata T, Kyozeuka H, Ogata Y, Sato A, Metoki H, Shinoki K, Yasumura S, Hosoya M, Hashimoto K, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Maternal prenatal and postnatal psychological distress trajectories and impact on cognitive development in 4-year-old children : the Japan Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis.* 2023;14 (6) : 781-794.
- 51) Isogami H, Murata T, Imaizumi K, Fukuda T, Kanno A, Kyozeuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Horiuchi S, Shinohara R, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Yamagata Z, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H. Association of Preconception or Antepartum Maternal Intimate Partner Violence with Autism Spectrum Disorder in 3-Year-Old Offspring : The Japan Environment and Children's Study. *J Womens Health (Larchmt)* . 2024;33 (1) : 80-89.
- 52) Murata T, Kyozeuka H, Fukuda T, Imaizumi K, Isogami H, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels and preterm births : a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study. *BMJ Open.* 2024;14 (2) : e063619.
- 53) Maeda H, Hashimoto K, Iwasa H, Kyozeuka H, Kume Y, Go H, Sato A, Ogata Y, Murata T, Fujimori K, Shinoki K, Nishigori H, Yasumura S, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association of cesarean section and infectious outcomes among infants at 1 year of age : Logistic regression analysis using data of 104,065 records from the Japan Environment and Children's Study. *PLoS One.* 2024;19 (2) : e0298950.
- 54) Omoto T, Kyozeuka H, Murata T, Fukuda T, Isogami H, Okoshi C, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Nagasaka Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K, The Japan Environment and Children's Study Group. Association between Preconception Dietary Fiber Intake and Preterm Birth : The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients.* 2024;16 (5) : 713.
- 55) Imaizumi K, Murata T, Isogami H, Fukuda T, Kyozeuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between daily breakfast habit during pregnancy and neurodevelopment in 3-year-old offspring : The Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep.* 2024;14 (1) : 6337.
- 56) Murata T, Kyozeuka H, Yasuda S, Imaizumi K, Isogami H, Fukuda T, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Nonreassuring fetal status during labor and offspring's childhood neurodevelopment at 3 years of age : The Japan Environment and Children's Study. *Int J Gynaecol Obstet.* 2024;165 (1) : 244-255.
- 57) Haneda K, Hosoya M, Fujimori K, Yasumura S, Nishigori H, Kuse M, Kyozeuka H, Maeda H, Sato A, Ogata Y, Hashimoto K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Gestational Age and Neurodevelopmental Delay in Term Births at 6 and 12 Months : The

- Japan Environment and Children's Study (JECS) . *Matern Child Health J.* 2024;28 (6) : 1031-1041.
- 58) Takahashi I, Obara T, Kikuchi S, Kobayashi N, Obara R, Noda A, Ohsawa M, Ishikawa T, Mano N, Nishigori H, Ueno F, Shinoda G, Murakami K, Orui M, Ishikuro M, Tomita H, Kuriyama S. Combination of taking neuropsychiatric medications and psychological distress in pregnant women, with behavioral problems in children at 2 years of age : The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study. *PCN Rep.* 2024;3 (3) : e226.
- 59) Murata T, Isogami H, Imaizumi K, Fukuda T, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Tocolytic treatment and maternal characteristics, obstetric outcomes, and offspring childhood outcomes among births at and after 37 weeks of gestation : the Japan environment and children's study. *Arch Gynecol Obstet.* 2024;310 (2) : 1089-1098.
- 60) Isogami H, Murata T, Imaizumi K, Fukuda T, Kanno A, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association Between Atopic Dermatitis in Pregnant Women and Preterm Births : The Japan Environment and Children's Study. *Matern Child Health J.* 2024;28 (9) : 1570-1577.
- 61) Omoto T, Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Isogami H, Okoshi C, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Association between preconception dietary fiber intake and hypertensive disorders of pregnancy : The Japan Environment and Children's Study. *Pregnancy Hypertens.* 2024; 37 : 101139.
- 62) Kikuchi D, Imaizumi M, Murata T, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Nishigori H, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Muro S. Relationship between sleep position and otitis media in infants : The Japan environment and children's study. *Auris Nasus Larynx.* 2024;51 (5) : 880-884.
- 63) Nishigori T, Nishigori H, Suzuki T, Fukuda T, Murata T, Kyojuka H, Sato A, Ogata Y, Nagasaka Y, Yasumura S, Fujimori K, Hosoya M, Hashimoto K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Breastfeeding and Children's Cognitive Development up to the Age of 4 Years : The Japan Environment and Children's Study. *Breastfeed Med.* 2024;19 (12) : 911-923.
- 64) Okoshi C, Kyojuka H, Omoto T, Fukuda T, Murata T, Yasuda S, Isogami H, Okutsu-Ono M, Sato A, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K. Targeted metabolomic analysis of early-trimester serum identifies potential mechanisms for late-onset preeclampsia. *J Matern Fetal Neonatal Med.* 2024;37 (1) : 2401970.
- 65) Ishikawa T, Sakai T, Iwama N, Obara R, Morishita K, Adomi M, Noda A, Ishikuro M, Kikuchi S, Kobayashi N, Tomita H, Saito M, Nishigori H, Kuriyama S, Mano N, Obara T. Association between exposure to atypical antipsychotics during pregnancy and risk of miscarriage. *Acta*

- Psychiatr Scand. 2024;150 (6) : 562-572.
- 66) Kyojuka H, Omoto T, Murata T, Fukuda T, Okoshi C, Isogami H, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between urinary cotinine level and hypertensive disorders of pregnancy in women with uterine myoma : findings from the Japan Environment and Children's Study. *Hypertens Res.* 2025;48 (1) : 102-109.
- 67) Murata T, Imaizumi K, Isogami H, Fukuda T, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Mori M, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Pre-pregnancy body mass index and lactational mastitis : The Japan Environment and Children's Study. *Arch Gynecol Obstet.* 2025;311 (1) : 79-86.
- 68) Omoto T, Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Isogami H, Okoshi C, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Nagasaka Y, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Relationship between preconception protein intake and gestational diabetes mellitus : The Japan Environment and Children's Study. *Diabetes Metab Syndr.* 2025;19 (2) : 103200.
- 69) Omoto T, Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Isogami H, Okoshi C, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kanno K, Nagasaka Y, Go H, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Impact of cord blood cadmium concentration on neonatal secondary sex ratio : The Japan Environment and Children's Study. *Sci Total Environ.* 2025; 970 : 179011.
- 70) Ogata Y, Matsumoto T, Suzuki Y, Nishigori T, Goto A, Sato A, Fukuda T, Imaizumi K, Kyojuka H, Murata T, Nagasaka Y, Nishigori H, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M, Hashimoto K; The Japan Environment and Children's Study Group. Association between the duration of mothers' digital media use while with their children and two-year-old children's development from the Japan Environment and Children's Study. *Sci Rep.* 2025;15 (1) : 10137.
- 71) Okabe H, Hashimoto K, Yamada M, Ono T, Yaginuma K, Kume Y, Chishiki M, Sato A, Ogata Y, Imaizumi K, Murata T, Kyojuka H, Nagasaka Y, Yasumura S, Nishigori H, Fujimori K, Hosoya M, Go H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between timing of exanthema subitum and febrile seizures : The Japan environment and children's study. *PLoS One.* 2025;20 (3) : e0321061.

2. 症例報告

該当無し

3. 総説

- 1) Watanabe T, Soeda S, Endo Y, Okabe C, Sato T, Kamo N, Ueda M, Kojima M, Furukawa S, Nishigori H, Takahashi T, Fujimori K: Rare Hereditary Gynecological Cancer Syndromes. *Int J Mol Sci* 2022, 23 (3) :1563.

4. 著書

該当無し

II. 和文

1. 原著

該当無し

2. 症例報告

該当無し

3. 総説

- 1) 西郡秀和. 【産婦人科患者説明ガイド-納得・満足を引き出すために】 周産期 (Q12) 妊娠中でもインフルエンザの予防接種をしたほうがよいですか? もしインフルエンザに感染したらどうしたらよいですか? (Q&A). 臨床婦人科産科2021; 75 (4): 125-126.
- 2) 西郡秀和. 【日本の周産期メンタルヘルス事情update】 11.忘れていませんか? 父親の周産期メンタルヘルス. 産婦人科の実際2021; 70 (6): 649-652.
- 3) 西郡秀和. 【ここを守る、支える、育む】 周産期メンタルヘルスにおける大規模コホート研究の構築に向けて 周産期医学の立場からコホート研究に迫る. 日本周産期メンタルヘルス学会会誌2021; 7 (1): 3-5.
- 4) 西郡秀和. 【児童虐待を予防する-産婦人科医,小児科医,精神科医のコラボレーション】 産科における胎児・児童虐待予防に向けた両親の支援と他科への引き継ぎの重要性. 精神神経学雑誌2021; 123 (10): 647-653.
- 5) 西郡秀和. 4.精神疾患合併妊娠 1) 精神疾患と妊娠・児の発達. 日本産科婦人科学会雑誌2021; 73 (11): 1607-1612 (1720)
- 6) 西郡秀和. 【妊婦と栄養 妊娠期の食事をめぐる最新知見とは】 エコチル調査に見る妊婦の葉酸サプリメント摂取と幼児の神経発達 食と医療2023; 24: 060-068.
- 7) 西郡秀和. DOHaDと周産期メンタルヘルス. 日本周産期メンタルヘルス学会会誌2023; 9 (1): 65-70.
- 8) 西郡秀和. 【産婦人科診療ガイドライン産科編2023改訂のポイント】 11.産褥精神障害の取り扱いは? 産科と婦人科2024; 91 (2): 167-171.
- 9) 西郡秀和. マルトリートメント予防に向けた父親も含めた周産期メンタルヘルスケアの必要性. 保育と保健2024; 30 (1): 14-17.

4. 著書

- 1) 西郡秀和. II 妊娠中の管理37.メンタルヘルスについては?、改訂第3版妊婦の糖代謝異常 診療・管理マニュアル、一般社団法人日本糖尿病・妊娠学会編、メヂカルフレンド社2021 174-176. (全

- 232)
- 2) 西郡秀和. II 妊娠中[合併症妊娠] 065 血液型不適合妊娠、周産期医学必修知識(第9版)、東京医学社 2022. 217-219 (全1362)
 - 3) 西郡秀和. 各論12妊産婦と向精神薬、精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイドライン 各論編、日本精神神経学会、日本産科婦人科学会編、精神神経学雑誌第124巻(別冊WEB版) 2022. G114-118.
 - 4) 西郡秀和.【第6編】 周産期における母子の異常と看護 第3章 産褥期における母子の異常と看護 I 産褥期における異常、新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 第7版、メヂカルフレンド社 2022. 402-413 (全496)
 - 5) 西郡秀和, 鈴木妙子. 第1章合併症妊娠がわかる! 3 精神疾患、合併症妊娠と妊娠に伴う異常の“今”がわかる! これからの助産師必携妊娠中の疾患30、近藤英治編、ペリネイタルケア 新春増刊、メディカ出版2023. 24-30. (全240)
 - 6) 西郡秀和. 21 産婦人科疾患 胎児水腫、今日の治療指針2023私はこちら治療している65巻、医学書院2023. 1368 (全2192)
 - 7) 西郡秀和. 第4章3妊娠中のストレスと児への影響、向精神薬と妊娠・授乳 改訂3版、伊藤真也、村島温子、鈴木利人編、南山堂 2023. 159-163, (全254)
 - 8) 西郡秀和. 6章DOHaDを基盤とする疫学研究 コラム エコチル調査福島ユニットセンター、DOHaD先制医療への展開、金原出版株式会社2023. 201. (全316)
 - 9) 西郡秀和. 9章 海外のDOHaD研究の状況 1.国際DOHaD学会と世界の状況、DOHaD先制医療への展開、金原出版株式会社、2023. 296-303. (全316)
 - 10) 西郡秀和. (分担執筆) 日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会編 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 日本産科婦人科学会 2023.
 - 11) 西郡秀和. 合併症妊娠 かんテキ産婦人科母子感染症、患者がみえる新しい「病気の教科書」、鈴木俊治監、豊島将文、大森昭子編、MCメディカ出版2023. 204-211. (全416)
 - 12) 西郡秀和. 産褥の管理 産褥の異常、かんテキ産婦人科患者がみえる新しい「病気の教科書」、鈴木俊治監、豊島将文、大森昭子編、MCメディカ出版2023. 310-313. (全416)
 - 13) 西郡秀和. 産褥の管理 産後のメンタル不調、かんテキ産婦人科患者がみえる新しい「病気の教科書」、鈴木俊治監、豊島将文、大森昭子編、MCメディカ出版 2023. 316-319. (全416)
 - 14) 西郡秀和. 1 母体編 3 合併症妊娠 11. 精神・神経疾患(うつ病、双極性障害、不安症、強迫症、統合失調症、てんかんなど)、専門医を目指す周産期診療ワークブック、日本周産期新生児医学会編、MEDICAL VIEW.2024, 101-106. (全576)
 - 15) 西郡秀和. 1 母体編 4 分娩・産褥期 10 精神・神経疾患(マタニティーブルーズ、うつ病、産褥精神病、ボンディング形成不全など)、専門医を目指す周産期診療ワークブック、日本周産期新生児医学会編、MEDICAL VIEW 2024,179-182. (全576)

公的助成金獲得

1. 研究代表者

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2022年4月1日～2026年3月31日(課題番号22K10979)「本邦の出生コホート研究成果の地域周産期医療・母子保健への導入に向けた基盤構築」(研究代表者：西郡秀和、研究分担者：篠原好江、篠原好江、渡邊まどか)
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2019年4月1日～2022年3月31日(課題番号19K09746)「妊婦の医薬品使用と児の先天奇形発症に関する環境・遺伝要因の解明」(研究代表者：西郡秀和、研究分担者：小原拓、栗山進一)

2. 研究分担者

該当無し

神保 正利 (2021 年 4 月～)

講 演

I. 国内学会

I-1. 国内の全国学会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 神保正利. 「この CTG をどう読むか」第56回日本分娩監視研究会、川口市;2022年6月26日

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

該当無し

I-2. 国内の地方会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

該当無し

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

該当無し

3. その他

- 1) 神保正利. 分娩期の助産診断・技術 ―「緊急時の対応」(分娩時出血)― (講義)、令和6年度 ふくしま助産師実践力向上研修、福島市;2024年9月24日

II. 海外学会

該当無し

論文

I. 英文

1. 原著

- 1) Ueda M, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Suzuki D, Kyojuka H, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Fujimori K. Successful pregnancy and term delivery after treatment of unicornuate uterus with non-communicating rudimentary horn pregnancy with local methotrexate injection followed by laparoscopic resection : a case report and literature review. BMC pregnancy and childbirth, 2021;21 (1) : 715.
- 2) Fujimori M, Takahashi T, Furukawa Y, Takanashi A, Iizawa Y, Jimbo M, Soeda S, Fujimori K, Takeichi K. Synchronous bilateral primary ovarian cancer with right endometrioid carcinoma and left high-grade serous carcinoma : a case report and literature review. BMC women's health, 2022; 22 (1) : 103.
- 3) Shiraiwa A, Takahashi T, Okoshi C, Wada M, Ota K, Suganuma R, Jimbo M, Soeda S, Watanabe T, Yoshida-Komiya H, Fujimori K. Successful pregnancy and delivery after a vitrified-warmed embryo transfer in a woman with Kallmann syndrome : A case report and literature review. Fukushima journal of medical science, 2022;68 (1) : 49-55.
- 4) Murata T, Kyojuka H, Yasuda S, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Jimbo M, Nishigori H, Fujimori K. Effects of acute tocolysis using ritodrine hydrochloride on foetal heart rate patterns in intrauterine foetal resuscitation : a retrospective, single-centre observational study. Journal of obstetrics and gynaecology : the journal of the Institute of Obstetrics and Gynaecology, 2022;42 (4) : 563 - 568.
- 5) Kamo N, Takahashi T, Soeda S, Jimbo M, Yoshida-Komiya H, Fujimori K. Hydrosalpinx in a premenarcheal 14-year-old girl with the proliferation of smooth muscle cells in the isthmus of the fallopian tube : A case report. The journal of obstetrics and gynaecology research, 2023;49 (2) : 769-774.

2. 症例報告

- 1) Fujimori M, Takahashi T, Furukawa Y, Takanashi A, Iizawa Y, Jimbo M, Soeda S, Fujimori K, Takeichi K : Synchronous bilateral primary ovarian cancer with right endometrioid carcinoma and left high-grade serous carcinoma : a case report and literature review. BMC Womens Health 2022, 22 (1) : 103.

3. 総説

該当無し

4. 著書

該当無し

II. 和文

1. 原著

該当無し

2. 症例報告

該当無し

3. 総説

- 1) 高橋俊文, 太田邦明, 神保正利. 【月経異常に対するホルモン療法を極める!-最新エビデンスと処方の実際】無月経 ホルムストローム療法. 臨床婦人科産科, 2021, 75 (11):1028-1032,
- 2) 神保正利. 【周産期医学必修知識 (第9版)】羊水 周産期医学, 2021,51 (増刊):40-42,
- 3) 高橋俊文, 太田邦明, 神保正利. 【最新の不妊診療がわかる!-生殖補助医療を中心とした新たな治療体系】(第1章) 生殖補助医療の適応と意義 どんな患者さんが体外受精・顕微授精を受けるのか 生殖補助医療の成功率を規定する因子. 臨床婦人科産科, 2022,76 (4):14-17,
- 4) 高橋俊文, 三浦秀樹, 大越千弘, 山口明子, 神保正利, 菅沼亮太. 【多嚢胞性卵巣症候群の最新知見-生涯にわたる健康管理を見据えて-】多嚢胞性卵巣症候群と若年者の月経異常. 産婦人科の実際, 2022,71 (9):961-965,
- 5) 高橋俊文, 大越千弘, 神保正利. 【女性医学から読み解くメタボリック症候群-専門医のための必須知識】疾患・分野別編 PCOSとメタボリック症候群. 臨床婦人科産科, 2022, 76 (10):987-992,
- 6) 神保正利. 【191の疑問に答える 周産期の栄養】産科編Q&A 妊娠全期間 (Question 51) 妊娠して便秘がひどくなりました。食生活のポイントを教えてください。周産期医学, 2022,52 (増刊),117-118,
- 7) 神保正利. 【191の疑問に答える 周産期の栄養】産科編Q&A 妊娠全期間 (Question 52) 妊娠して尿が近くなりました。水分を控えたほうがよいですか? 周産期医学, 2022,52 (増刊):119,
- 8) 神保正利. 【周産期診療のための病態生理】産科編 羊水の病態生理 羊水過多の原因・メカニズムは? (解説) 周産期医学, 2023,53 (増刊):273-276,

4. 著書

- 1) 神保正利. 分娩期の異常 羊水と臍帯の異常 羊水混濁. THE 分娩 ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて、石川紀子、中川有加編 村越毅監 メディカ出版, 2021、202-208(全 328)

公的助成金獲得

1. 研究代表者

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2020年4月1日～2024年3月31日(課題番号20K10858)「災害時の産科医療教育プログラムと妊産婦行動支援のための情報ツールの開発」(研究代表者: 神保正利、研究分担者: 高橋俊文、太田邦明)
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2024年4月1日～2027年3月31日(課題番号24K13956)「災害時の産科医療支援のための医療従事者向け教育プログラムと自己評価ツールの開発」(研究代表者: 神保正利、研究分担者: 高橋俊文)

2. 研究分担者

- 1) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2024年4月1日～2027年3月31日(課題番号24K13368)「産婦人科診療の地域格差解消に向けた基盤データの構築-リアルワールドデータ解析」(研究代表者: 高橋俊文、研究分担者: 菅沼亮太、神保正利)

小川 真里子 (2024年4月～)

講演

I. 国内学会

I-1. 国内の全国学会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

該当無し

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

- 1) 小川真里子. 性成熟期女性への漢方療法. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 生涯教育プログラム5 産婦人科における漢方治療, 横浜; 2024年4月20日
- 2) 小川真里子. がんサバイバー女性の骨代謝. 第24回日本抗加齢医学会総会 シンポジウム4 女性の加齢と骨代謝, 熊本; 2024年5月31日
- 3) 小川真里子. 更年期以降を見据えた女性のホルモン補充療法を再考する. 第97回日本内分泌学会学術総会 クリニカルアワー4, 横浜; 2024年6月6日
- 4) 小川真里子. 女性ホルモンによる様々な困りごととその対応 ～医療、セルフケア、プラスα～. 一般社団法人日本地域看護学会第27回学術集会 共催セミナー, 仙台(オンデマンド); 2024年6月30日
- 5) 小川真里子. 女性の思春期における心身医学的課題. 第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 シンポジウム8 月経に関連した心身医学的課題, 東京; 2024年6月30日
- 6) 小川真里子. 低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬(LEP). 第52回日本女性心身医学会学術集会 シンポジウムI, 東京; 2024年8月31日
- 7) 小川真里子. 女性ホルモンと更年期. 第52回日本女性心身医学会学術集会 ミニシンポジウム, 東京; 2024年9月1日

I-2. 国内の地方会

1. 特別講演・招待講演・会長講演等

- 1) 小川真里子. 女性の毎日を支えるLEP連続投与 ～これまでと、これから～. 令和6年度筑豊産婦人科医会学術講演会 特別講演, 福岡; 2024年5月30日
- 2) 小川真里子. 軽くしたい、助けたい. 女性の月経前の不調. 第12回玉川・世田谷産婦人科医会合同学術講演会 特別講演, 東京; 2024年6月13日
- 3) 小川真里子. 第4のエストロゲンE4 ～なぜ必要? どう役立つ?～. 札幌市産婦人科医会学術講演会, 札幌; 2025年1月25日
- 4) 小川真里子. 月経前の不調に寄り添う ～ついでに少し私達のキャリアにも. 第113回徳島産科婦人科合同学術集会 特別講演, 徳島; 2025年2月2日
- 5) 小川真里子. 女性特有の不調によりそう漢方処方の選択 ～beyond the 三大処方～. 福島県産婦人科医会県中地区学術講演会 特別講演, 郡山; 2025年2月13日
- 6) 小川真里子. 第4のエストロゲンE4 ～なぜ必要? どう役立つ? そしてプラスα. 第41回熊本産婦人科 桃李会 特別講演, 熊本; 2025年2月27日
- 7) 小川真里子. 第4のエストロゲンE4 ～なぜ必要? どう役立つ?～. 新宿・中野・杉並三区合同

学術講演会, 東京; 2025年3月6日

- 8) 小川真里子. もっと知ってもっと寄り添う、月経まわりの困りごと. 愛知県産婦人科医会第9回学術研修会 特別講演1, 名古屋; 2025年3月15日

2. シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等

- 1) 小川真里子. 産業医のための女性の更年期障害の知識. 日本産業衛生学会関東産業医部会 令和6年度 関東産業医部会産業医研修会, 東京都港区; 2024年12月21日

II. 海外学会

- 1) Ogawa M, Makita K, Takamatsu K, Takahashi T. Effect of Hormone Replacement Therapy with Micronized Progesterone on the Sleep quality of Japanese Women: A Pilot Study. International Menopause Society 19th World Congress on Menopause, Melbourne Australia, 2024 Oct 20

論文

I. 英文

1. 原著

- 1) Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T. Guideline for gynecological practice in Japan : Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J Obstet Gynaecol Res. 2024;50 (7) : 1073-1094. doi : 10.1111/jog.15950. Epub 2024 Apr 16.
- 2) Ogawa M, Komura H, Ono Y, Nose-Ogura S, Kawai K, Terauchi M, & from the subcommittee “Survey of the Obstetrics and Gynecology-Based Treatment for Patients with Eating Disorders in Japan” in Women's Health Care Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2021-2022 (2024) . Attitude and experience of obstetricians and gynecologists toward eating disorders assessment and management in Japan : A nationwide survey. The journal of obstetrics and gynaecology research, 2024;50 (9) : 1470-1478. doi : 10.1111/jog.16017. Epub 2024 Jul 1.
- 3) Ogawa M, Iioka Y, Takamatsu K. Mental health and quality of life in patients with premenstrual exacerbation : a cross-sectional study in Japan. J Obstet Gynaecol. 2024 ;44 (1) : 2378440. doi : 10.1080/01443615.2024.2378440. Epub 2024 Jul 16. PMID : 39011817.
- 4) Ogawa M, Iioka Y, Takamatsu K. Anxiety and Depression in Japanese Patients with Genitourinary Syndrome of Menopause. Int Urogynecol J. 2025;36 (1) : 189-196. doi : 10.1007/s00192-024-05996-w. Epub 2024 Dec 7. PMID : 39644347.

2. 症例報告

該当なし

3. 総説

該当なし

4. 著書

該当無し

II. 和文

1. 原著

- 1) 小川真里子、柏崎奏絵、白橋真由、橋本志歩、高松潔. 更年期女性の不安や抑うつに対する漢方方剤の有効性とその背景因子の検討. 産婦人科漢方研究のあゆみ 2024;40:13－18.
- 2) 小川真里子、飯岡由紀子、高松 潔. 更年期障害評価尺度 (Menopause Rating Scale) 日本語版の作成と内容妥当性の検証. 日本女性医学学会雑誌、2024；31（4）：622－628.

2. 症例報告

該当なし

3. 総説

- 1) 小川真里子. 性差と摂食障害. 最新精神医学 2024；29（2）：113-119,
- 2) 小川真里子, 高松潔. 月経前気分障害 (PMDD) のQOL. 精神科治療学, 2024；39（3）：273-278
- 3) 小川真里子. これでマスター！最新産婦人科ホルモン療法 摂食障害・女性アスリートの月経異常. 産科と婦人科, 2024；91（増刊）：197-204
- 4) 小川真里子. PMS・PMDDに対するサプリメント. 産科と婦人科, 2024；91（8）：891-897
- 5) 小川真里子. 月経前症候群・月経前不快気分障害. 臨床婦人科産科, 2024；78（8）：682-688
- 6) 小川真里子. 性ホルモン関連薬（主に経口避妊薬、黄体ホルモン製剤、抗エストロゲン薬、GnRHアナログに関して）. 精神科治療学, 2024；39（増刊）：268-271
- 7) 小川真里子. 月経前の精神的・身体的症状. 産婦人科の実際, 2024；73（11）：1135-1140
- 8) 小川真里子. PMS/PMDDにおけるホルモン剤・抗うつ薬・漢方薬の使い分け, 産婦人科navi 2024；18：6－8
- 9) 小川真里子. 第76回日本産科婦人科学会・学術講演会 生涯研修プログラム5 2) 性成熟期女性への漢方療法. 日本産科婦人科学会雑誌, 2024；76（12）：1702-1705
- 10) 小川真里子. どうして女性は月経がきそうってわかるの？ 妊娠したとき月経前症候群が起こらないのはなぜ？ 産科と婦人科, 2025；92（4）：407-412

4. 著書

- 1) 小川真里子. 第3章 副作用・有害事象 ホットフラッシュ. がん化学療法ファーストタッチ. 宮城悦子, 堀田信之/監、堀田信之, 太田一郎, 畑千秋編. じほう. 2024；179－183（全560）
- 2) 小川真里子. 9章 中高年女性の疾患. 産婦人科医のための社会保険ABC. 第7版, 日本産科婦人科学会編. メジカルビュー社. 2025；233－242（全272）
- 3) 小川真里子. 月経前症候群. 今日の治療指針2025. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 医学書院. 2025；1310（全2208）
- 4) 小川真里子. H 女性のヘルスケア 5 外陰腔萎縮. 産科婦人科疾患最新の治療2025－2027. 杉山隆, 梶山広明, 吉野修編. 南江堂. 2025；254－255（全282）
- 5) 小川真里子. PMSに対してエビデンスがあるサプリメントはありますか？ 女性診療で必要な栄養素・サプリメントの知識 90. 岩佐武, 黒田恵司, 小谷友美, 太田邦明編、メジカルビュー社. 2025；272

－ 274（全 324）.

- 6) 渡邊善, 小川真里子, 白土なほ子, 武田卓, 樋口毅, 廣瀬明日香, 吉見佳奈. 月経前症候群・月経前不快気分障害に対する診断・治療指針. 日本産科婦人科学会 女性ヘルスケア委員会 2023－2024 年度「月経前症候群・月経前不快気分障害に対する診断・治療指針作成小委員会、20250331. (全 39)

公的助成金獲得

1. 研究代表者

- 1) 科学研究補助金 基盤研究(C) 2025年4月1日～2030年3月31日(課題番号25K14299)「労働生産性の観点からみた更年期障害の治療個別化戦略」(研究代表者：小川真里子、研究分担者：高橋俊文)

2. 研究分担者

- 1) 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 女性の健康の包括的支援政策研究 2023年4月1日～2026年3月31日(課題番号23FB1003)「女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究」(研究代表者：甲賀かをり、研究分担者：小川真里子、他11名)

その他



センター教員名簿 (2025 年 11 月現在)

氏 名 (センター役職)	所 属	センター勤務期間 (勤務)	診療科 (専門)	卒業年	卒業大学
吉村 泰典 (スーパーバイザー)		2016 年 4 月～ (非常勤)	産婦人科 (生殖医療)	S50	慶應義塾大
高橋 俊文 (センター長・教授)	医大	2016 年 4 月～ (常勤)	産婦人科 (生殖医学、内視鏡下手術)	H 2	山形大
横山 浩之 (副センター長・教授)	医大	2016 年 4 月～ (常勤)	小児科 (小児発達障害、 小児神経学)	S62	東北大
西郡 秀和 (教授)	医大	2019 年 4 月～ (常勤)	産婦人科 周産期医学、 遺伝カウンセリング	H 5	群馬大
小川 真里子 (教授)	医大	2024 年 4 月～ (常勤)	産婦人科 (女性医学)	H 7	福島県立医科大
神保 正利 (特任教授)	医大	2018 年 9 月～ (常勤)	産婦人科 (周産期医学)	H 4	昭和大
南 洋輔 (特任助教)	国立成育医療研究 センター研究所	2020 年 4 月～ 2023 年 3 月 (常勤) 2023 年 4 月～ (非常勤)	小児外科	H25	京都府立医科大
鈴木 大輔 (特任講師)	太田西ノ内病院	2018 年 4 月～ 2019 年 3 月 (常勤) 2019 年 4 月～ (非常勤)	産婦人科 (周産期救急、 内視鏡下手術)	H13	富山大
福島 明宗 (特任教授)	北上済生会病院	2016 年 4 月～ (非常勤)	産婦人科 (臨床遺伝学、 周産期医学)	S59	岩手医科大

センター教員名簿 (2025 年 11 月現在)

氏 名 (センター役職)	所 属	センター勤務期間 (勤務)	診療科 (専門)	卒業年	卒業大学
清水 直樹 (特任教授)	聖マリアンナ 医科大	2016 年 4 月～ (非常勤)	小児科 (PICU)	H 2	千葉大
新津 健裕 (特任准教授)	埼玉県立小児医療 センター	2016 年 4 月～ (非常勤)	小児科 (PICU)	H 8	山梨大
齊藤 修 (特任准教授)	東京都立小児総合 医療センター	2016 年 4 月～ (非常勤)	小児科 (PICU)	H 9	東京医科歯科大
磯部 真倫 (特任教授)	岐阜大学	2017 年 9 月～ (非常勤)	産婦人科 婦人科腫瘍、 (内視鏡下手術、医学教育)	H14	山形大
萩原 重俊 (特任助教)	手稲溪仁会病院	2019 年 4 月～ (非常勤)	小児科 (PICU)	H21	東京慈恵会医科大
福井 淳史 (特任教授)	空の森クリニック	2020 年 4 月～ (非常勤)	産婦人科 生殖医学、 (内視鏡下手術)	H 7	弘前大
金森 豊 (特任教授)		2022 年 7 月～ (非常勤)	小児外科	S59	東京大学
黒田 優佳子 (特任教授)	黒田インター ナショナル メディカル リプロダクション	2024 年 2 月～ (非常勤)	産婦人科	S62	慶應義塾大学
(故) 水沼 英樹 (前センター長)		2016 年 4 月～ 2020 年 7 月 (常勤) 2020 年 7 月逝去	産婦人科 女性医学、 (生殖内分泌学)	S50	群馬大

公立大学法人福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター要綱

(平成 28 年 4 月 1 日理事長制定)

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程（平成 18 年 4 月 1 日基本規程第 1 号）第 5 条の 8 第 2 項の規定に基づき、ふくしま子ども・女性医療支援センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、妊娠の前段階から妊娠、出産、子どもの成長及び女性の生涯にわたる健康を一貫して支えるという理念のもと、子どもと女性の医療に携わる医師の養成を支援する事業を実施し、県内の子ども・女性医療水準の向上を図るとともに、産婦人科医及び小児科医の県内定着を目指す。

(組織)

第 3 条 センターは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員

2 センター長は、理事長が指名する教員をもって充て、センターの業務を総括する。

3 副センター長は、理事長が指名する教員をもって充て、センター長を補佐する。

4 センター長に事故あるときは、副センター長がその職務を代理する。

5 センター員は、センターの業務を処理する。

(スーパーバイザーの設置)

第 4 条 センターの業務に助言を与える者として、スーパーバイザーを置く。

2 スーパーバイザーは、理事長が指名する教員若干名をもって充て、必要の都度、センター業務に係る助言や調整を行う。

(事務)

第 5 条 センターの事務は、教育研修支援課において処理する。

(雑則)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**公立大学法人福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター
小児科医師・産婦人科医師 招へい事業 助成要綱**

(平成 28 年 4 月 1 日理事長制定)

(目的)

第 1 条 この要綱は、ふくしま子ども・女性医療支援センター（以下「センター」という。）から小児科医師、産婦人科医師 招へい事業に必要となる経費を助成することにより、福島県内の小児科医師、産婦人科医師の増加を図るため、次のとおり招へい事業に関する必要な事項を定める。

(助成対象)

第 2 条 助成対象は、これから福島県で小児科医師、産婦人科医師として勤務することを検討している者（医学生・研修医及び県外で勤務している小児科医師、産婦人科医師など）を対象に福島県立医科大学の小児科学講座、産科婦人科学講座（以下「各講座」という。）が行っている医師招へい活動に関するものとする。

(助成対象経費)

第 3 条 助成対象となる経費は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 学生・研修医が学会・セミナーの参加に要した経費
・参加費、福島県立医科大学旅費規程に準じて支給する交通費・宿泊費 等
- (2) 医局説明会の経費
・学生・研修医などの対象者が必ず出席していること。
- (3) その他、センター長が特に必要と認める経費

(上限額)

第 4 条 招へい事業の上限額は、年度当初のセンター予算額に応じてセンター長が上限額を決め、各講座に通知する。ただし、年度途中でセンター予算の見直しがあった場合には上限額の変更を行うことがある。

(手続き等)

第 5 条 各講座の所属長の下承を得たうえでセンターへ必要書類を提出するものとする。

(助成金の支給)

第 6 条 事務局は、必要書類を確認後、各講座から指定された銀行口座へ助成金を振り込むものとする。

附 則

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日より施行する。

ふくしま子ども・女性医療支援センターのシンボル・ロゴマークとロゴ

シンボルマーク（左から、春、夏、秋、冬をイメージ）



ロゴマーク（左から、春、夏、秋、冬をイメージ）



ふくしま子ども・
女性医療支援センター

ふくしま子ども・
女性医療支援センター

ふくしま子ども・
女性医療支援センター

ふくしま子ども・
女性医療支援センター

ロゴ日本語

ふくしま子ども・
女性医療支援センター

ロゴ英語

Fukushima
Medical Center
for Children
and Women

ふくしま子ども・女性医療支援センターホームページ



ふくしま子ども・女性医療支援センター

● センターについて ● 所属教員紹介 ● 資料ダウンロード



福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育み、
健康な一生を過ごすための医療支援

お知らせ

2025.12.24	お知らせ	令和8年3月13日 第8回ふくしま産婦人科・小児セミナー開催のお知らせ →
2025.12.16	お知らせ	令和8年2月20日 第2回こども医療センター特別セミナー開催のお知らせ →
2025.11.25	お知らせ	令和8年3月10日(火)開催 産婦人科・小児科・小児外科ハズオントレーニングガイダンス →

[VIEW ALL](#)



Fukushima Medical Center
for Children
and Women

福島県立医科大学

**安心して子どもを産み、
育てられる福島県へ**

ふくしま子ども・女性医療支援センターは、「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことを目的に設立された、全国的にも例をみないオンライン型の施設です。

[センターの目的 →](#)

わたしたちの取り組み



医師総へい事業

産婦人科産婦人科、小児科(PHCU)、小児外科を他科(助産師)と連携してセンターにサポートしています。



医師スキルアップ事業

県内の産婦人科専攻医を対象としたスキルアップセミナーの開催や医大生への講義などの人材育成支援事業を行っています。



医療支援（地域・県内）

県内各医療機関への医師派遣を通じて診療、支援を行うことで、県民の子ども・女性医療水準の向上を図ります。



地域支援事業

県内の各医療機関と協力して、県民の子ども・女性を支援します。



出前講座

ふくしま子ども・女性医療支援センターでは、県内各医療機関からの求めに応じて教員が出前、出張による「出前講座」を行っています。



子どもと女性の健康相談室

福島県産婦人科「子どもと女性の健康相談室」で、センター専任教員が産婦人科と子どもの健康の相談を行っています。



公立大学法人 福島県立医科大学
ふくしま子ども・女性医療支援センター

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地 TEL 024-547-1385 FAX 024-547-1386
https://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/ E-mail fmccw@fmu.ac.jp



編集後記

ふくしま子ども・女性医療支援センターの10周年記念誌では、5周年誌以降の2021年からの5年間にわたる取り組みをまとめました。当センターの5年間の実績が一覧できるよう、構成や内容にも工夫を重ねております。

この記念誌の発行には、福島県（保健福祉部医療人材対策室）、福島県立医科大学（教育研修支援課、広報コミュニケーション室）、そして当センターの教職員や事務スタッフの皆さまのご協力が不可欠でした。ここに深く感謝の意を表します。特に、事務面で当センターを支えてくださった六角美絵さん、高野裕美さん、渡邊美枝さんへは、心よりお礼申し上げます。

2025年10月には、日本初となる女性総理大臣・高市早苗内閣総理大臣が誕生し、女性が活躍できる場が今後さらに広がっていく中で、日本社会全体が大きな変化の節目を迎えています。私たちセンターは、福島県の女性が健康で活躍できる社会づくりを医療の側面から支える使命のもと、これからも成長と発展をめざしてまいります。

本誌が、これまでの歩みを振り返るだけでなく、次の10年に向けた新たな一歩を考える契機となれば幸いです。読者の皆さまからいただく温かいご支援とご意見は、私たちの活動を前に進める力となります。今後とも変わらぬご指導・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ふくしま子ども・女性医療支援センター
センター長 高橋俊文



ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設 10 周年記念誌

2021 ～ 2025

2021 ～ 2025 Fukushima Medical Center for Children and Women, Fukushima Medical University

令和8年2月発行

発行 公立大学法人福島県立医科大学
ふくしま子ども・女性医療支援センター
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

印刷 株式会社日進堂印刷所
制作 株式会社進和クリエイティブセンター



Fukushima
Medical Center
for Children
and Women